

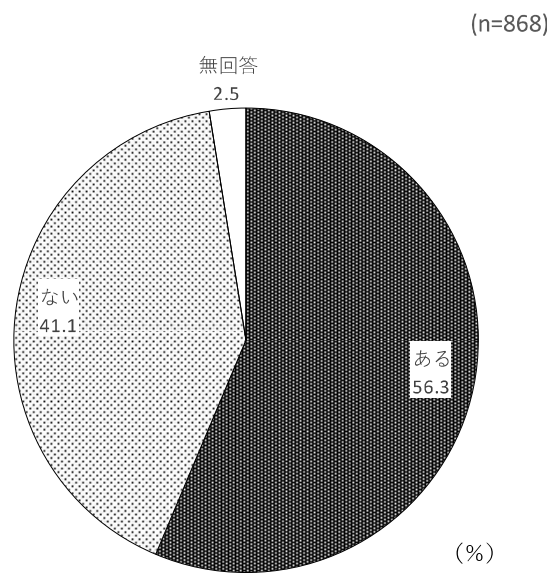
6 子育て支援

(1) 子育ての経験の有無

問 14 あなたは子育ての経験がありますか。(○は1つだけ)

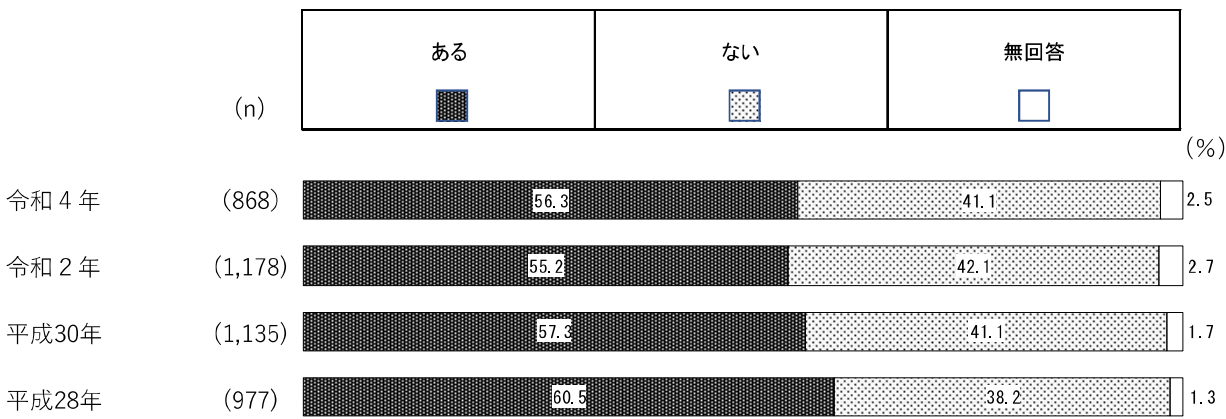
子育ての経験があるか聞いたところ、「ある」(56.3%)が5割半ば、「ない」(41.1%)は4割超となっている。
(図表 6-1-1)

図表 6-1-1 子育ての経験の有無



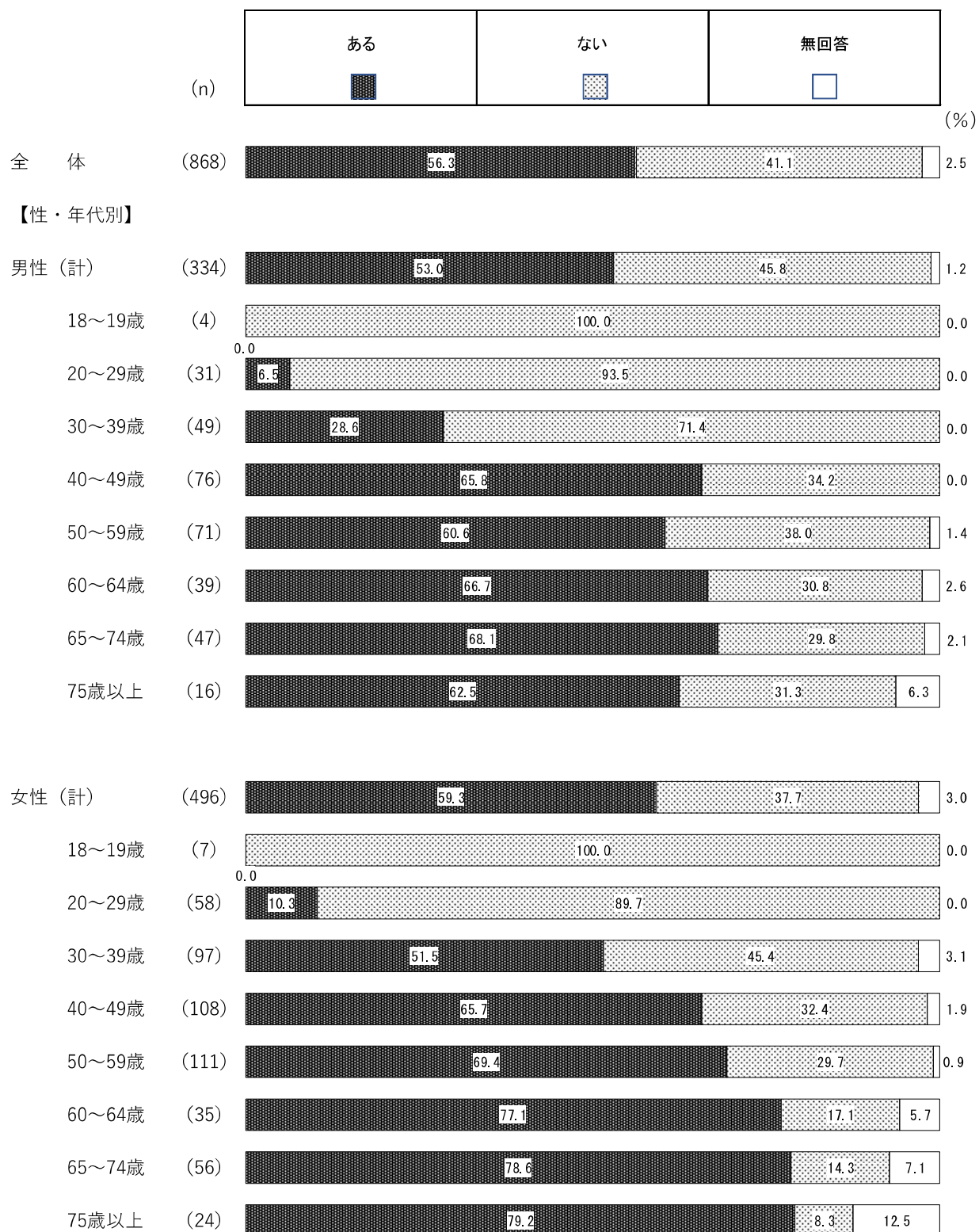
過去の調査と比較すると、前回調査より「ある」は 1.1 ポイント増加している。(図表 6-1-2)

図表 6-1-2 子育ての経験の有無



性・年代別にみると、「ある」は女性 60～64 歳 (77.1%)・女性 65～74 歳 (78.6%)・女性 75 歳以上 (79.2%) が7割以上で多かった。(図表 6-1-3)

図表 6-1-3 子育ての経験の有無－性・年代別



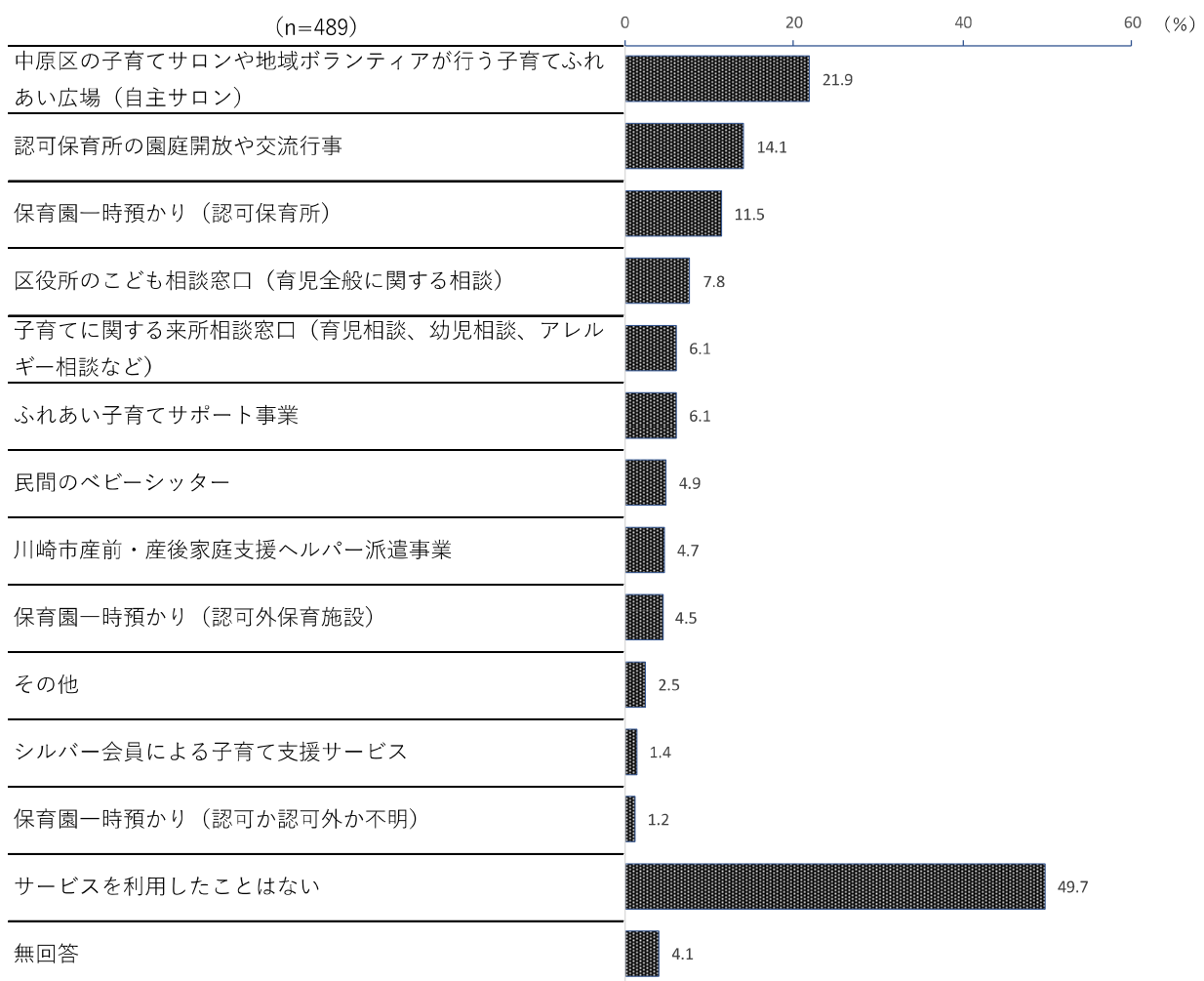
（２）利用したことがある子育て支援サービス

問 14ー1 （問 14 で、「ある」と回答した方に）

ふだん利用している、もしくは利用したことのあるサービスを教えてください。（○はいくつでも）

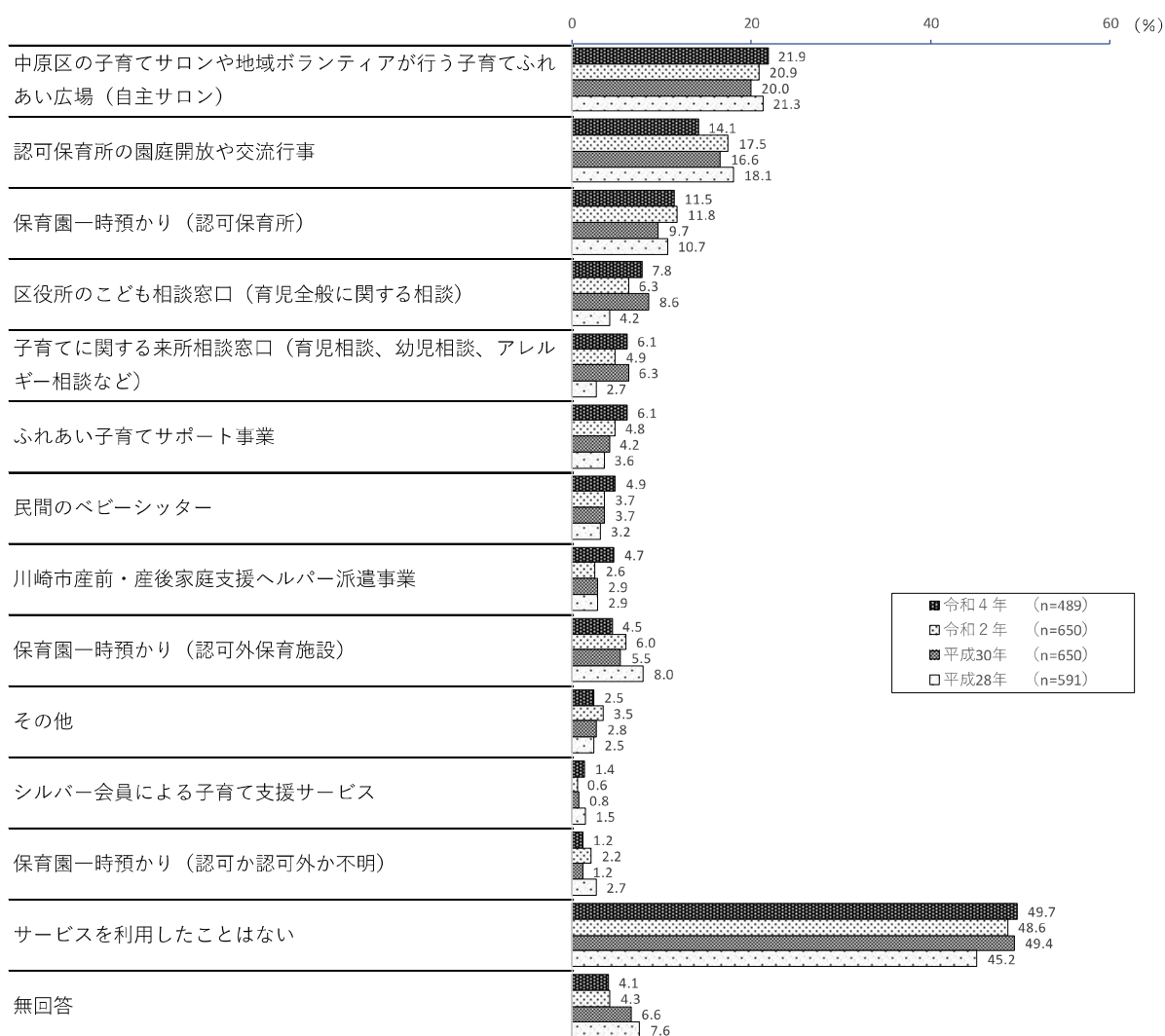
子育ての経験が「ある」と回答した方(489 人)に、ふだん利用している、もしくは利用したことのあるサービスを聞いたところ、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」(21.9%)が2割強で最も多く、次いで「認可保育所の園庭開放や交流行事」(14.1%)、「保育園一時預かり（認可保育所）」(11.5%)となっている。一方、「サービスを利用したことはない」(49.7%)は約5割となっている。（図表 6-2-1）

図表 6-2-1 利用したことがある子育て支援サービス



過去の調査と比較すると、前回調査より「川崎市産前・産後家庭支援ヘルパー派遣事業」が 2.1 ポイント、「区役所のこども相談窓口（育児全般に関する相談）」が 1.5 ポイント増加している。一方、「認可保育所の園庭開放や交流行事」が 3.4 ポイント、「保育園一時預かり（認可外保育施設）」が 1.5 ポイント減少している。（図表 6-2-2）

図表 6-2-2 利用したことがある子育て支援サービスー過去の調査との比較

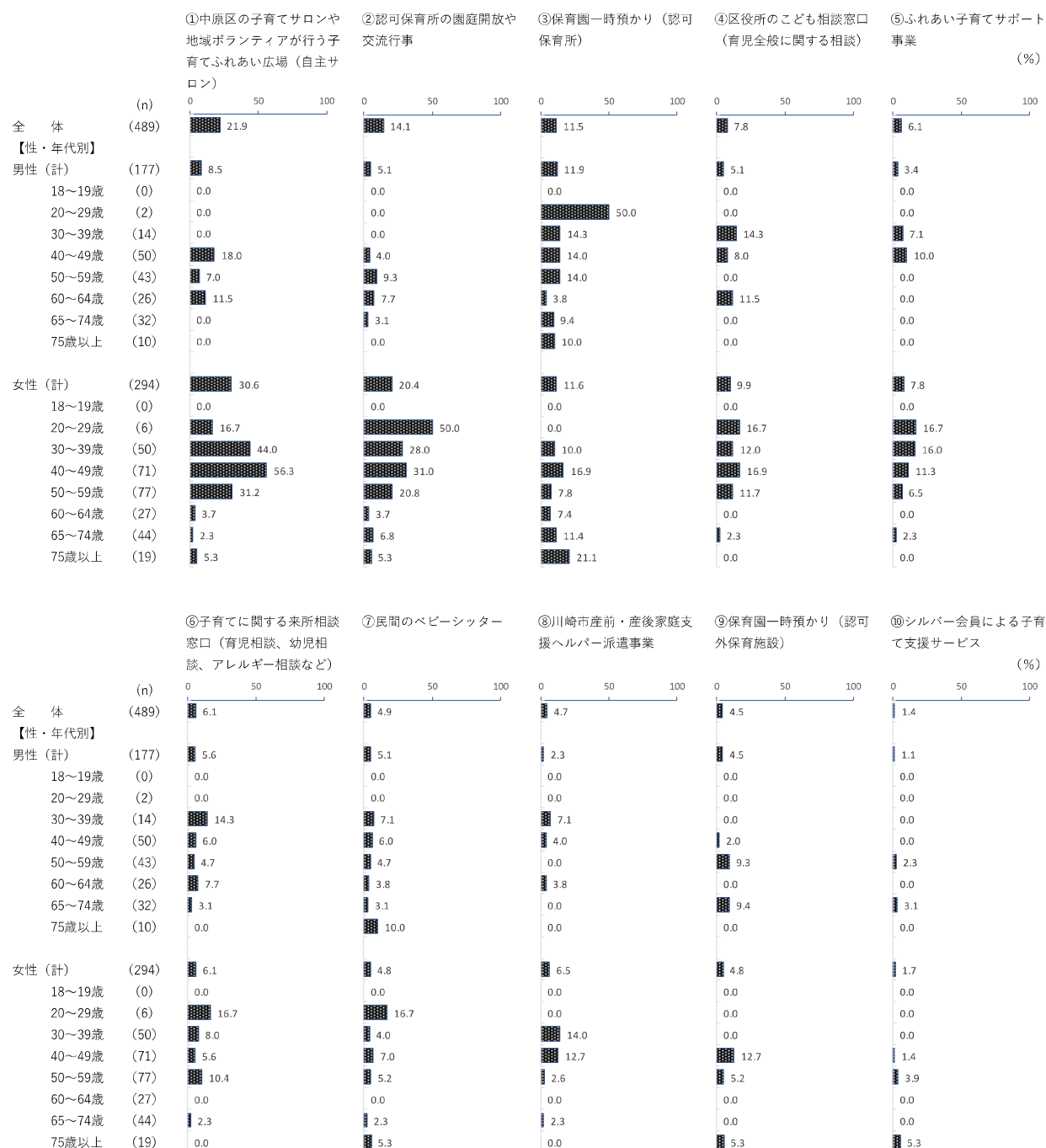


※「区役所のこども相談窓口（育児全般に関する相談）」は、平成 28 年調査では「こども相談窓口」としていた。

※「子育てに関する来所相談窓口（育児相談、幼児相談、アレルギー相談など）」は、平成 28 年調査では「子育てに関する来所相談窓口」としていた。

性・年代別にみると、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場(自主サロン)」は女性 40～49 歳(56.3%)が5割を超えて、「認可保育所の園庭開放や交流行事」は女性 20～29 歳(50.0%)が 5 割で多かった。(図表 6-2-3)

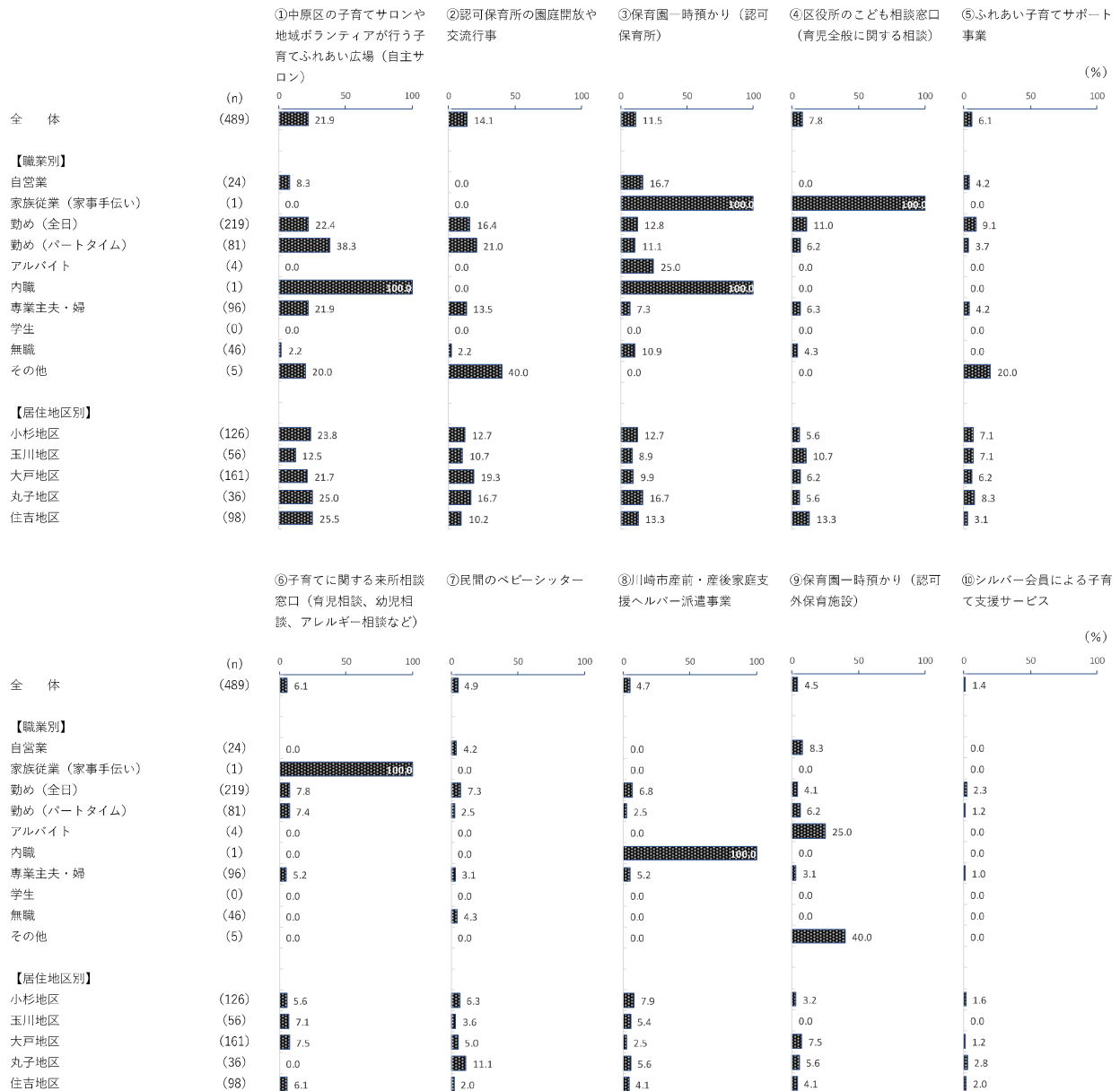
図表 6-2-3 利用したことがある子育て支援サービス・性・年代別（上位 10 項目）



職業別にみると、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」は勤め（パートタイム）（38.3%）が4割弱で多かった。「認可保育所の園庭開放や交流行事」は勤め（パートタイム）（21.0%）が2割強で多かった。「保育園一時預かり（認可保育所）」は自営業（16.7%）・勤め（全日）（12.8%）・勤め（パートタイム）（11.1%）・無職（10.9%）が1割強で多かった。

居住地区別にみると、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」は住吉地区（25.5%）が最も多く、「認可保育所の園庭開放や交流行事」は大戸地区（19.3%）が2割弱で多かった。「保育園一時預かり（認可保育所）」は丸子地区（16.7%）が1割半ばで多かった。（図表 6-2-4）

図表 6-2-4 利用したことがある子育て支援サービス・職業別・居住地区別（上位 10 項目）



居住年数別にみると、5年～10年未満が「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」で32.8%、「認可保育所の園庭開放や交流行事」で20.3%で多かった。（図表 6-2-5）

	①中京区の子育てサロンや 地域ボランティアが行う子 育てふれあい広場（自主サ ロン）	②認可保育所の園庭開放や 交流行事	③保育園一時預かり（認可 保育所）	④区役所のこども相談窓口 （育児全般に関する相談）	⑤ふれあい子育てサポート 事業
全 体	(n) (489)	0 50 100 21.9	0 50 100 14.1	0 50 100 11.5	0 50 100 7.8
【住居形態別】					
持家（一戸建）	(170)	19.4	12.9	14.1	6.5
持家（マンション・集合住宅）	(200)	23.0	14.5	11.0	10.0
借家（一戸建）	(4)	50.0	25.0	0.0	0.0
借家（マンション・集合住宅）	(91)	26.4	18.7	8.8	5.5
社宅・寮・公務員社宅	(10)	10.0	0.0	10.0	20.0
その他	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0
【同居家族人数別】					
1人	(19)	0.0	5.3	5.3	5.3
2人	(99)	9.1	10.1	7.1	3.0
3人	(180)	19.4	10.6	13.3	10.0
4人	(135)	34.8	20.7	13.3	11.1
5人	(34)	38.2	32.4	17.6	2.9
6人	(10)	20.0	0.0	0.0	0.0
【居住年数別】					
1年未満	(8)	25.0	12.5	0.0	0.0
1年～3年未満	(29)	10.3	6.9	3.4	10.3
3年～5年未満	(26)	23.1	11.5	7.7	11.5
5年～10年未満	(64)	32.8	20.3	14.1	12.5
10年～20年未満	(137)	30.7	16.1	13.1	9.5
20年以上	(195)	15.4	12.8	11.3	4.1
生まれてからずっと住んでいる	(30)	10.0	10.0	13.3	10.0

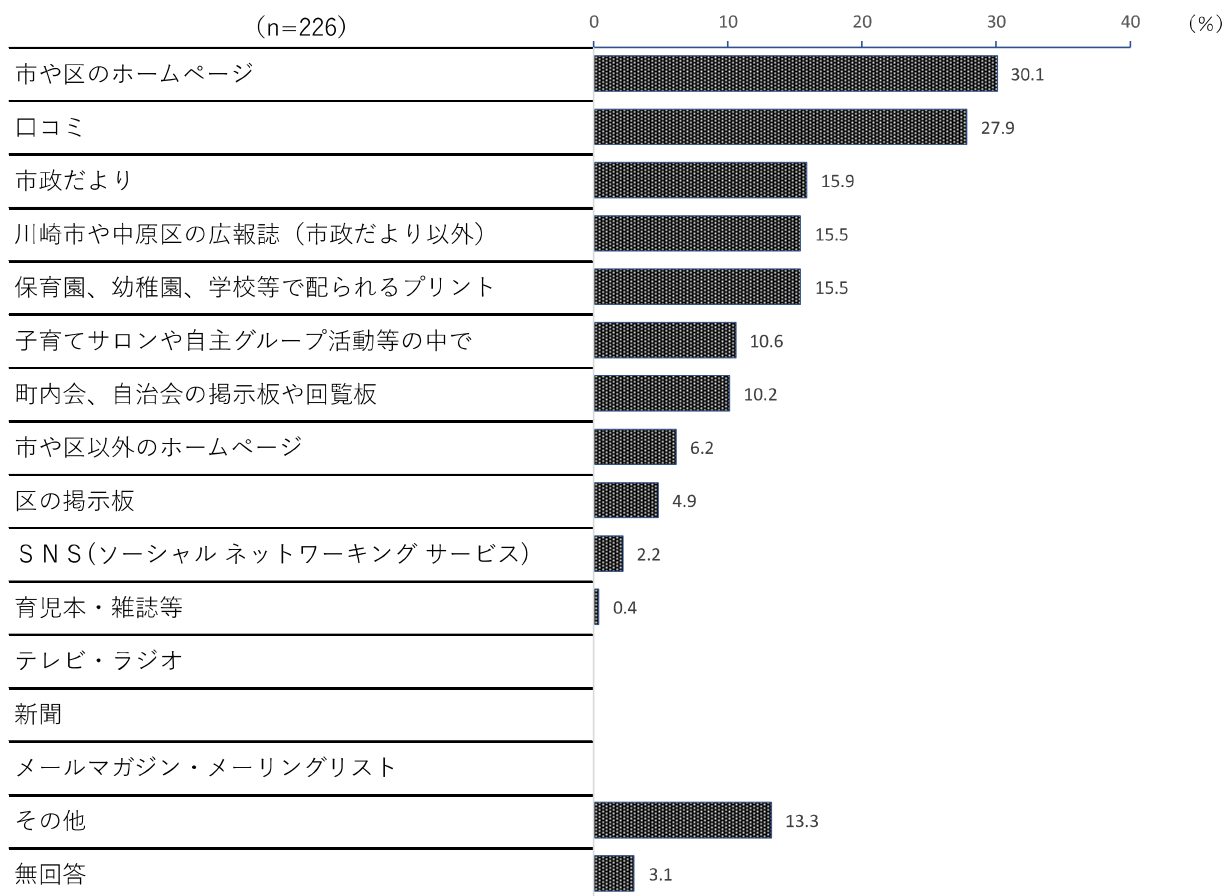


(3) 子育て支援サービスを知ったきっかけ

問 14-2 (問 14-1で、「サービスを利用したことはない」以外を回答した方に)
これらのサービスはどちらで知りましたか。(○は3つまで)

子育て支援の「サービスを利用したことはない」以外を回答した方(226人)に、サービスを何で知ったか聞いたところ、「市や区のホームページ」(30.1%)が3割強で最も多く、次いで「口コミ」(27.9%)、「市政だより」(15.9%)、「川崎市や中原区の広報誌(市政だより以外)」(15.5%)、「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」(15.5%)となっている。(図表 6-3-1)

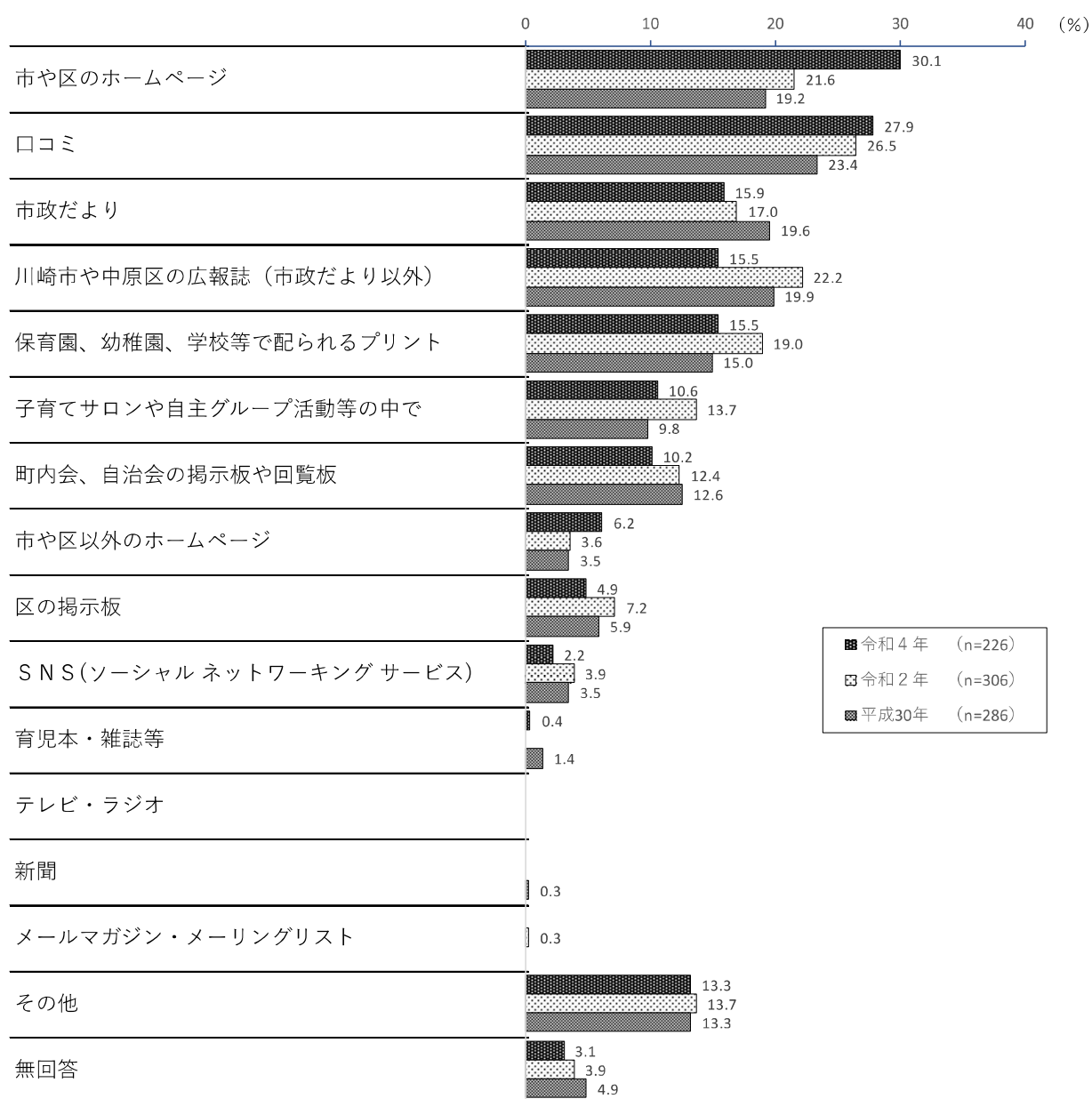
図表 6-3-1 子育て支援サービスを知ったきっかけ



過去の調査と比較すると、前回調査より「市や区のホームページ」が8.5ポイント、「市や区以外のホームページ」が2.6ポイント増加している。一方、「川崎市や中原区の広報誌（市政だより以外）」が6.7ポイント、「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」が3.5ポイント、「子育てサロンや自主グループ活動等の中で」が3.1ポイント減少している。

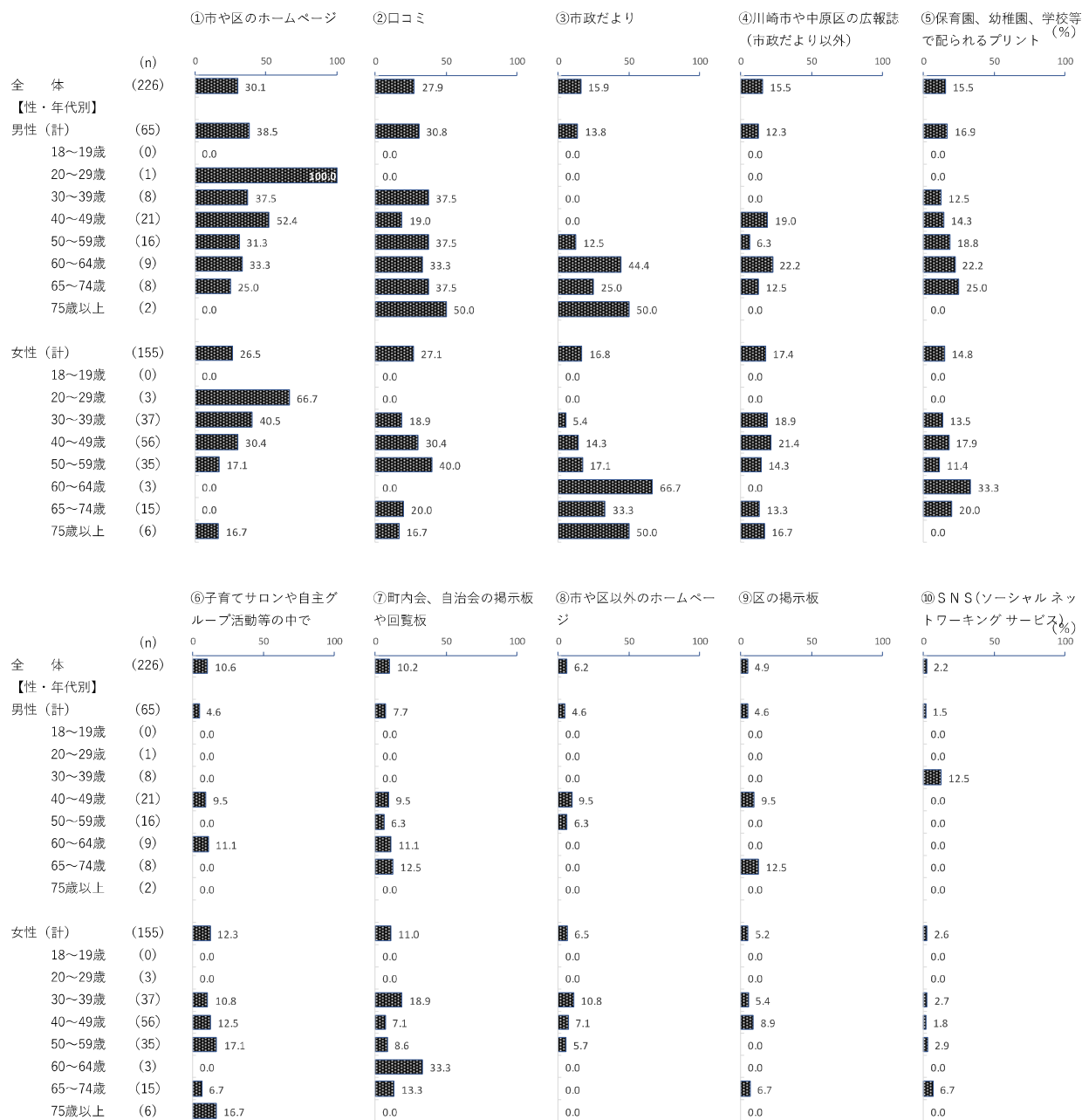
（図表 6-3-2）

図表 6-3-2 子育て支援サービスを知ったきっかけ—過去の調査との比較



性・年代別にみると、「市や区のホームページ」は男性 40～49 歳 (52.4%) が 5 割強で多かった。「ロコミ」は女性 50～59 歳 (40.0%) が 4 割で多かった。「市政だより」はおおむね若年層は少なかった。(図表 6-3-3)

図表 6-3-3 子育て支援サービスを知ったきっかけ・年代別（上位 10 項目）



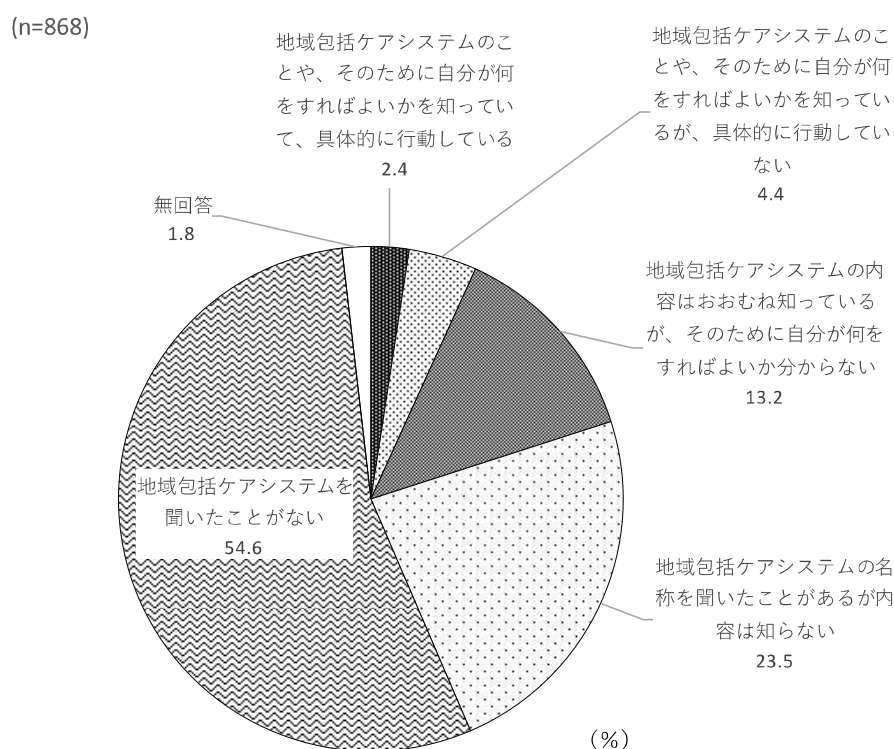
7 地域包括ケアシステム

(1) 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動

問 15 川崎市では、超高齢社会の到来を見据えて、「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。あなたの「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について、あてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

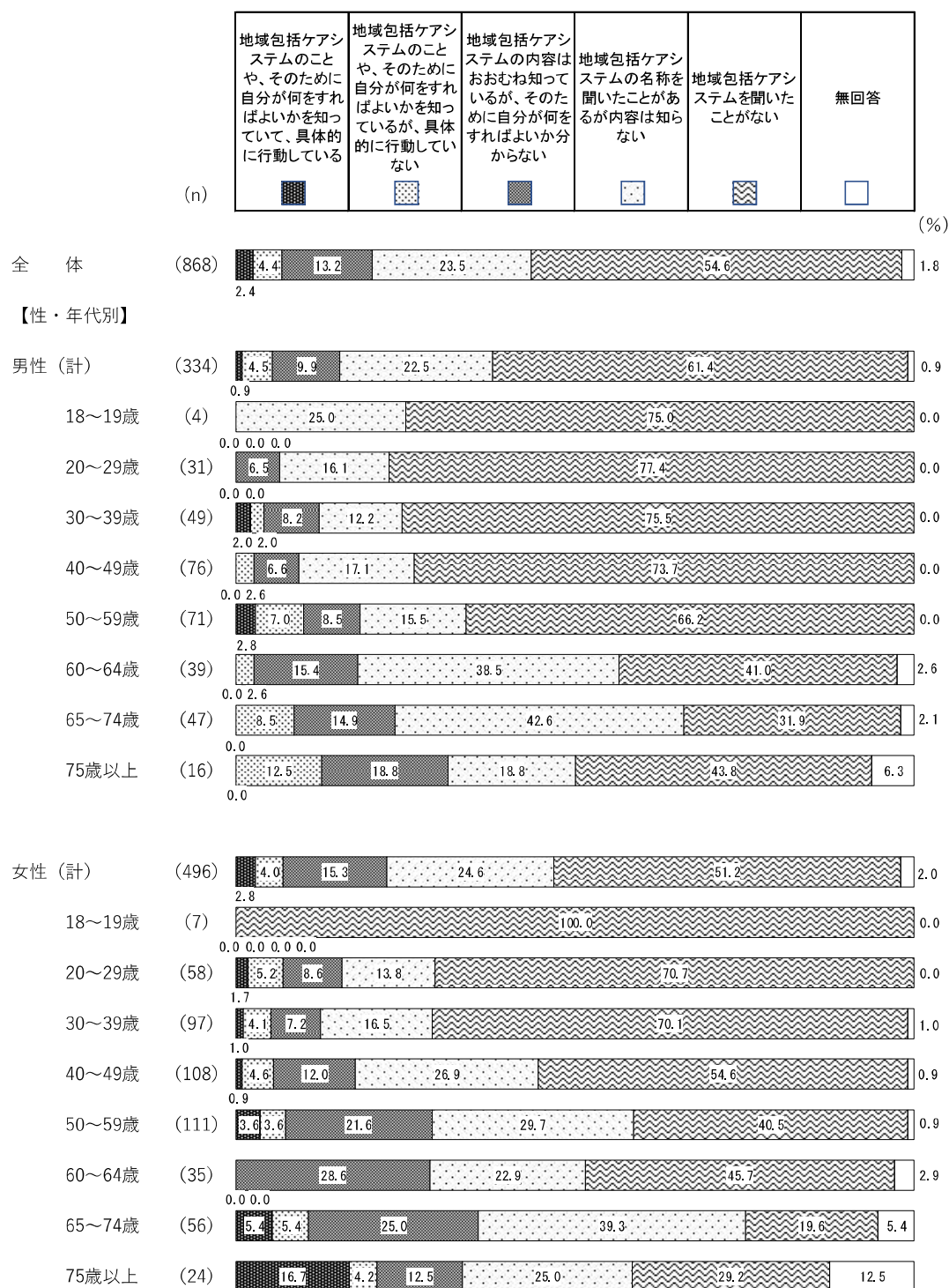
「地域包括ケアシステム」の理解度や行動について聞いたところ、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」(54.6%)が5割半ばで最も多く、次いで「地域包括ケアシステムの名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(23.5%)、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいかわからない」(13.2%)、「地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかわ知っているが、具体的に行動していない」(4.4%)、「地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかわ知っていて、具体的に行動している」(2.4%)となっている。(図表 7-1-1)

図表 7-1-1 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動



性・年代別にみると、男女とも概ね年代が下がるほど「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が高くなっている。(図表 7-1-2)

図表 7-1-2 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動一性・年代別



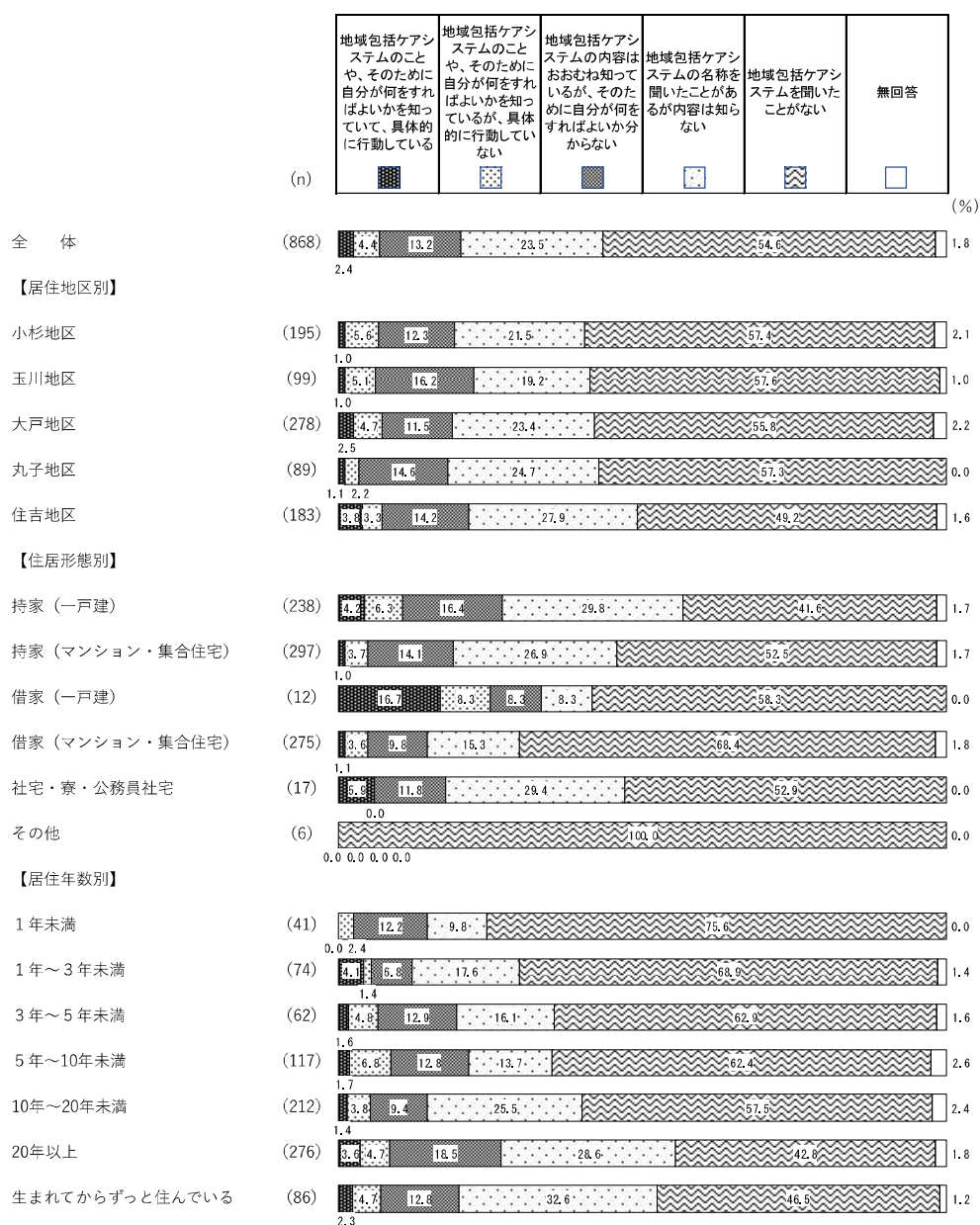
居住地区別にみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は住吉地区(49.2%)が5割弱で最も少ない。

「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいか分からない」は玉川地区(16.2%)が1割半ばで多かった。

住居形態別にみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は借家(マンション・集合住宅)(68.4%)が7割弱となっている。「地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っていて、具体的に行動している」は借家(一戸建)(16.7%)が最も多い。

居住年数別にみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は20年以上(42.8%)、生まれてからずっと住んでいる(46.5%)が半数を切っている。また、おおむね居住年数が長いほど少ない傾向にある。(図表 7-1-3)

図表 7-1-3 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動一居住地区別・住居形態別・居住年数別



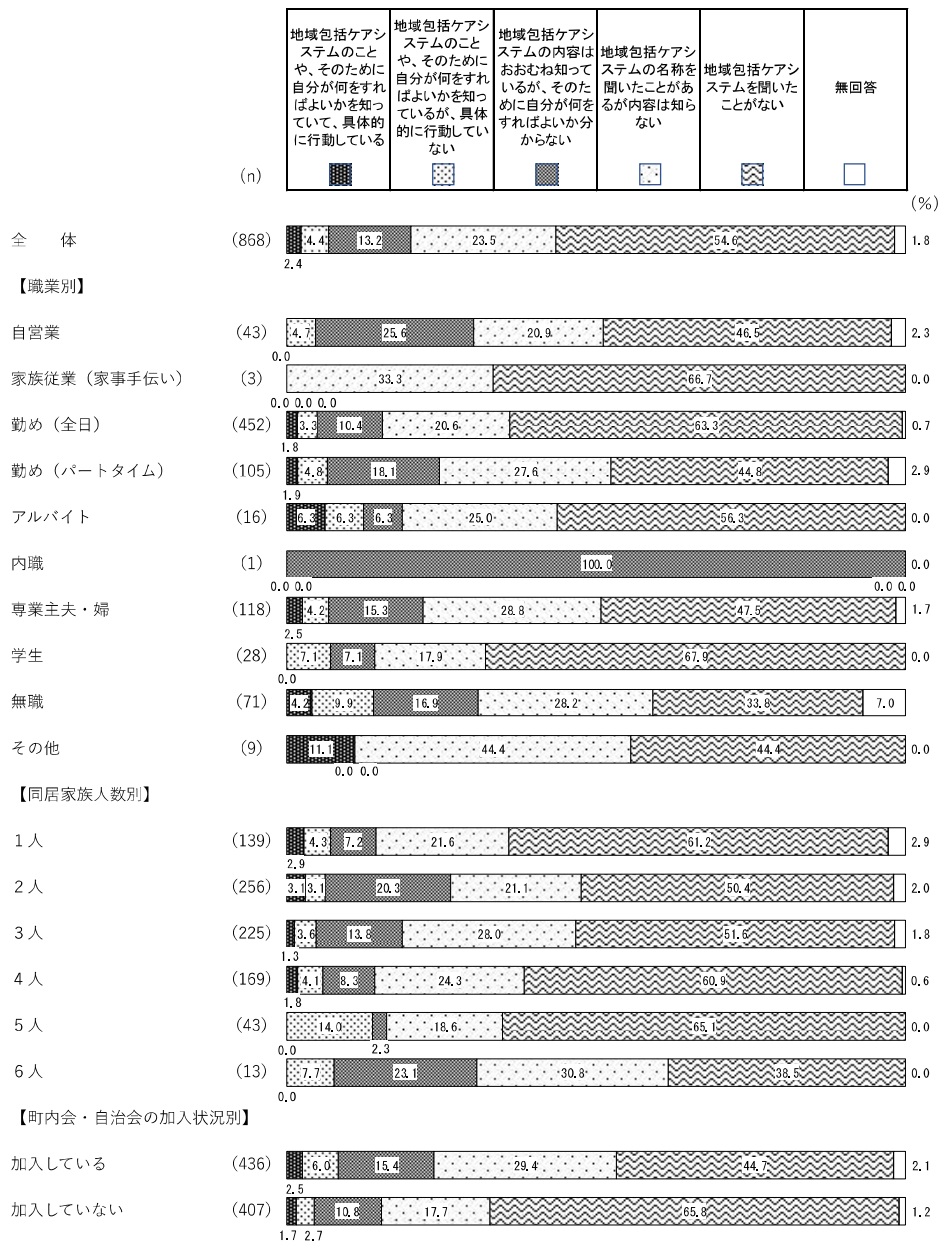
職業別にみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は学生(67.9%)が7割弱で多かった。

同居家族人数別でみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は5人(65.1%)が6割半ばとなっている。

町内会・自治体の加入状況別でみると、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」は加入している人(44.7%)が4割半ば、加入していない人(65.8%)が6割半ばとなっている。(図表 7-1-4)

図表 7-1-4 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動

一職業別・同居家族人数別・町内会や自治体の加入状況別

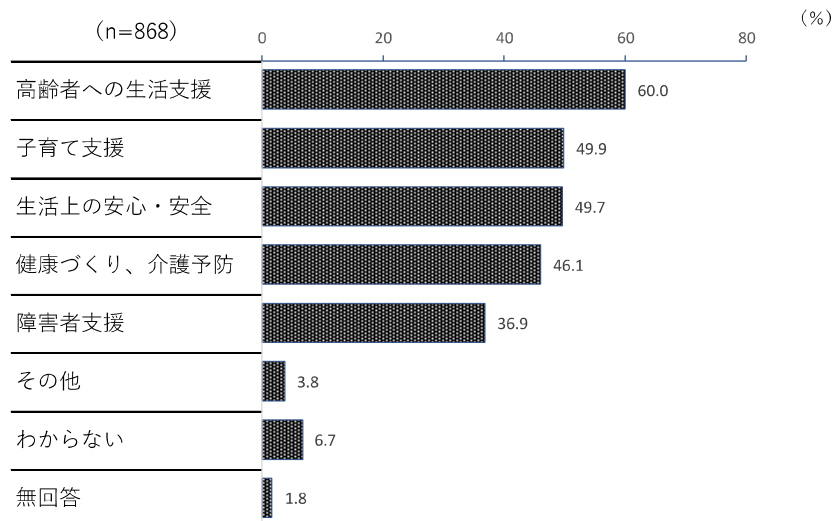


(2)「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと

問 16 地域包括ケアシステムによって取り組むべきだと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

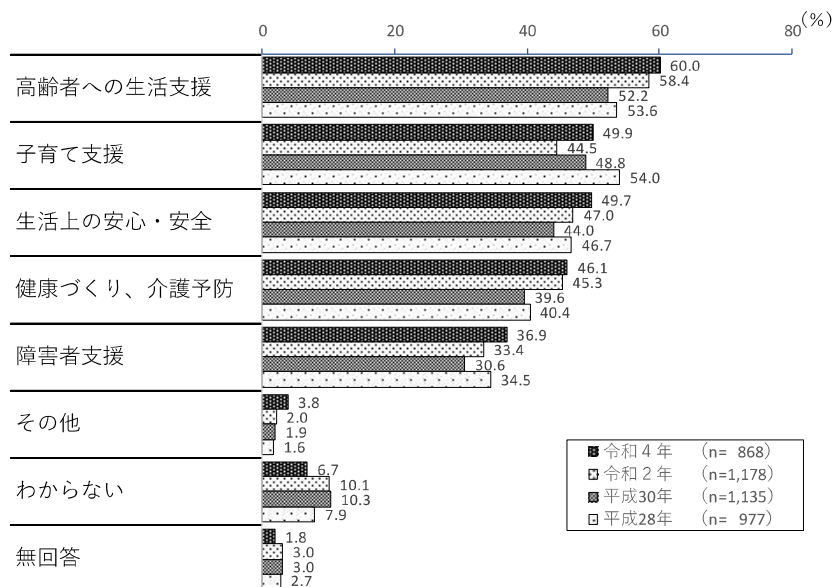
地域包括ケアシステムによって取り組むべきだと思うものを聞いたところ、「高齢者への生活支援」(60.0%)が6割で最も多く、次いで「子育て支援」(49.9%)、「生活上の安心・安全」(49.7%)、「健康づくり、介護予防」(46.1%)となっている。(図表 7-2-1)

図表 7-2-1 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと



過去の調査と比較すると、前回調査より「子育て支援」が 5.4 ポイント、「障害者支援」が 3.5 ポイント、「生活上の安心・安全」が 2.7 ポイント増加している。(図表 7-2-2)

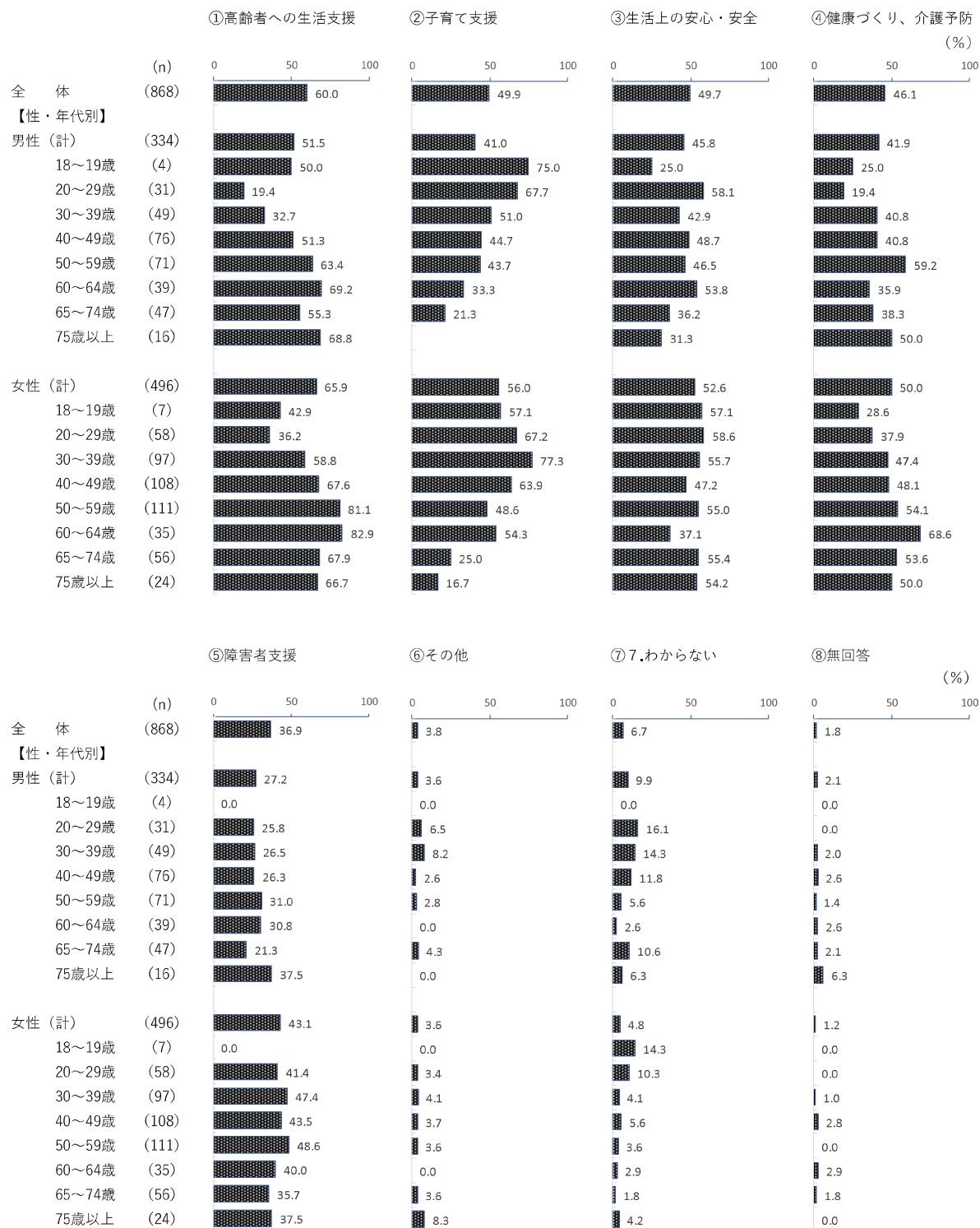
図表 7-2-2 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきことー過去の調査との比較



性・年代別にみると、「高齢者への生活支援」は女性 60～64 歳 (82.9%)・女性 50～59 歳 (81.1%) が 8 割を超えている。「子育て支援」は女性 30～39 歳 (77.3%) が 7 割半ばで多かった。

(図表 7-2-3)

図表 7-2-3 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと一性・年代別



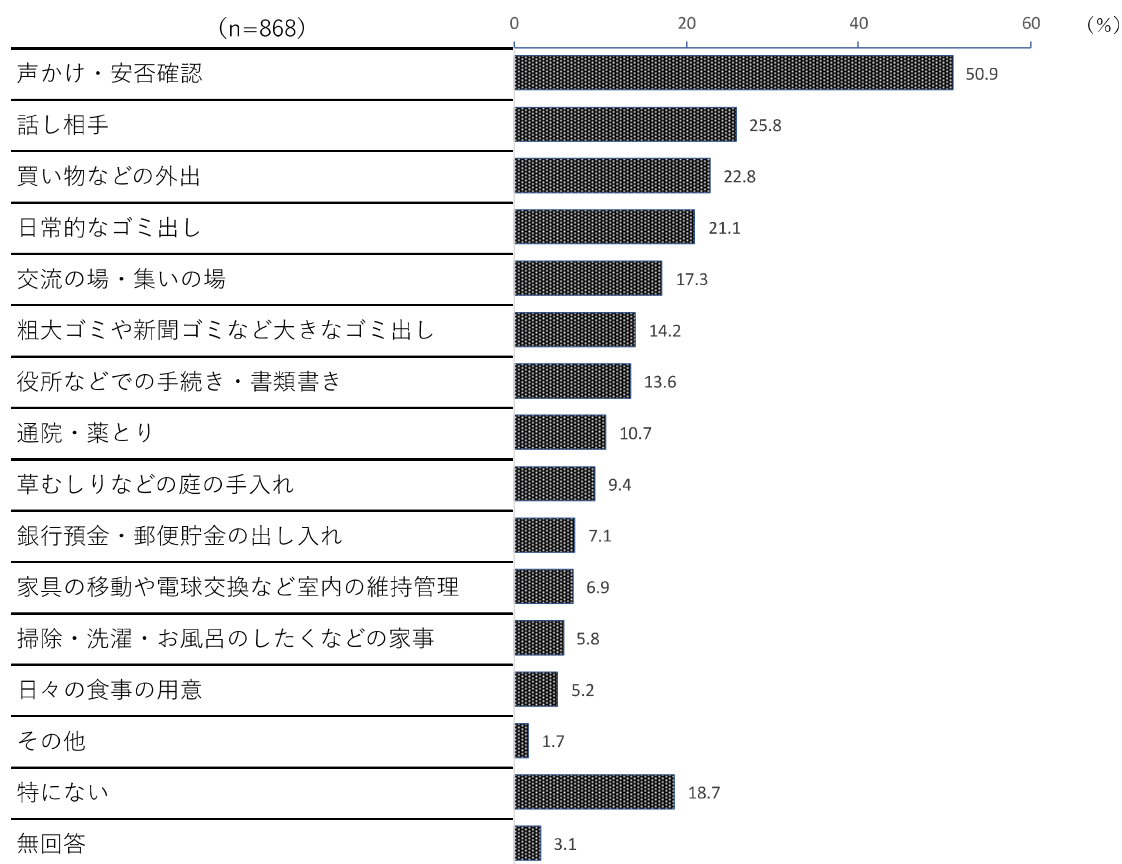
8 地域の支え合い

(1) 地域の支え合いに協力できること

問 17 あなたが地域の支え合いに協力できることについて教えてください。(〇はいくつでも)

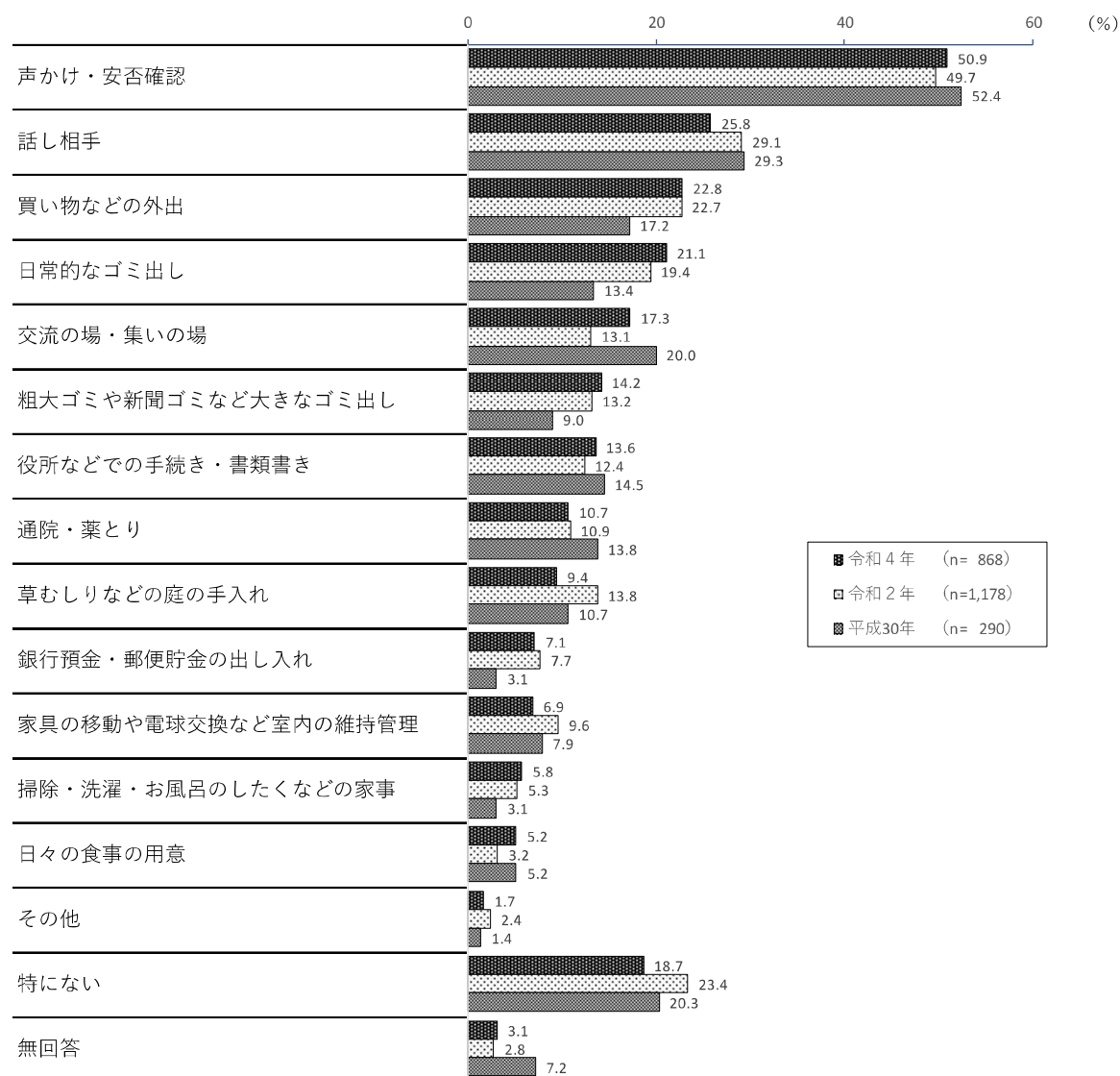
地域の支え合いに協力できることについて聞いたところ、「声かけ・安否確認」(50.9%)が5割強で最も多く、次いで「話し相手」(25.8%)、「買い物などの外出」(22.8%)、「日常的なゴミ出し」(21.1%)となっている。(図表 8-1-1)

図表 8-1-1 地域の支え合いに協力できること



過去の調査と比較すると、前回調査より「交流の場・集いの場」が 4.2 ポイント増加している。一方、「草むしりなどの庭の手入れ」が 4.4 ポイント減少している。(図表 8-1-2)

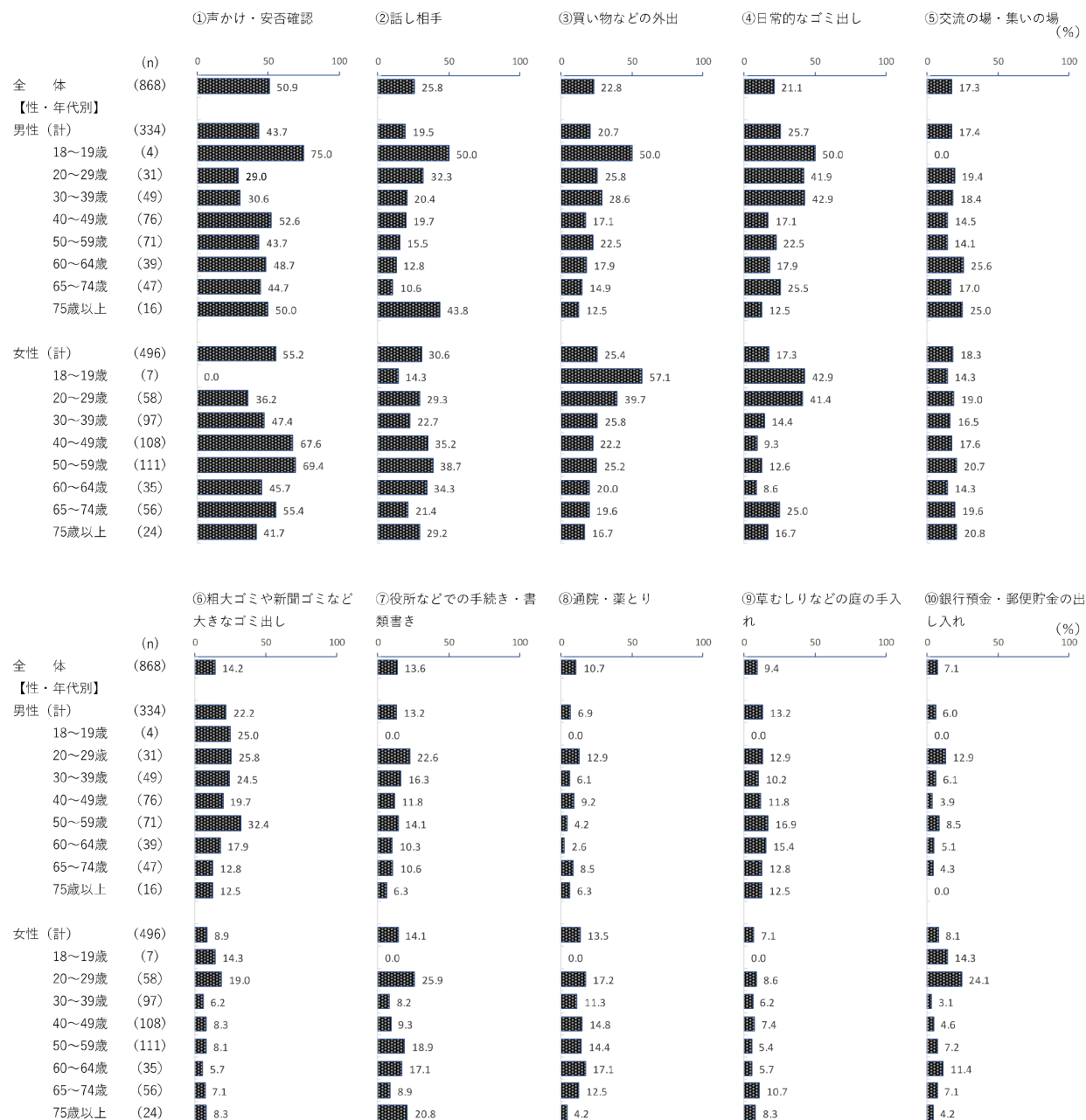
図表 8-1-2 地域の支え合いに協力できることー過去の調査との比較



※平成 30 年調査では、60 歳以上に対する設問としていた。

性・年代別にみると、「声かけ・安否確認」は女性 50～59 歳(69.4%)・女性 40～49 歳(67.6%)が7割弱で多かった。「話し相手」は男性 75 歳以上(43.8%)・女性 50～59 歳(38.7%)が約4割で多かった。(図表 8-1-3)

図表 8-1-3 地域の支え合いに協力できること一性・年代別（上位 10 項目）

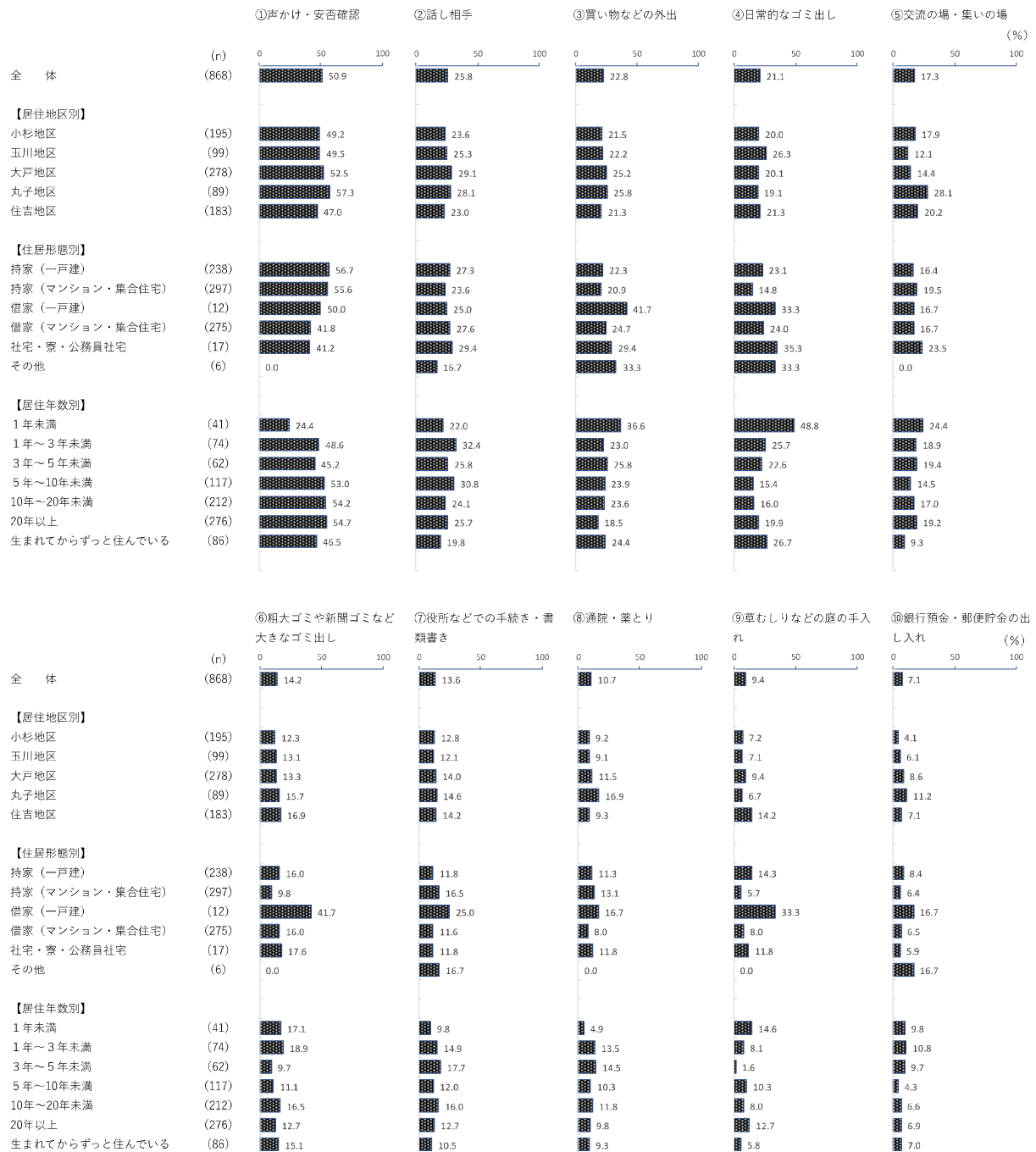


居住地区別にみると、「声かけ・安否確認」は丸子地区(57.3%)・大戸地区(52.5%)が5割超で多かった。「交流の場・集いの場」は丸子地区(28.1%)が3割弱で多かった。

住居形態別にみると、「声かけ・安否確認」は持家(一戸建)(56.7%)・持家(マンション・集合住宅)(55.6%)が5割を超えて多くなっている。「買い物などの外出」は借家(一戸建)(41.7%)が4割強で多かった。

居住年数別にみると、「声かけ・安否確認」は20年以上(54.7%)・10年～20年未満(54.2%)・5年～10年未満(53.0%)が5割超で多かった。「日常的なゴミ出し」は1年未満(48.8%)が5割弱で多かった。(図表 8-1-4)

図表 8-1-4 地域の支え合いに協力できること一居住地区別・住居形態別・居住年数別(上位10項目)

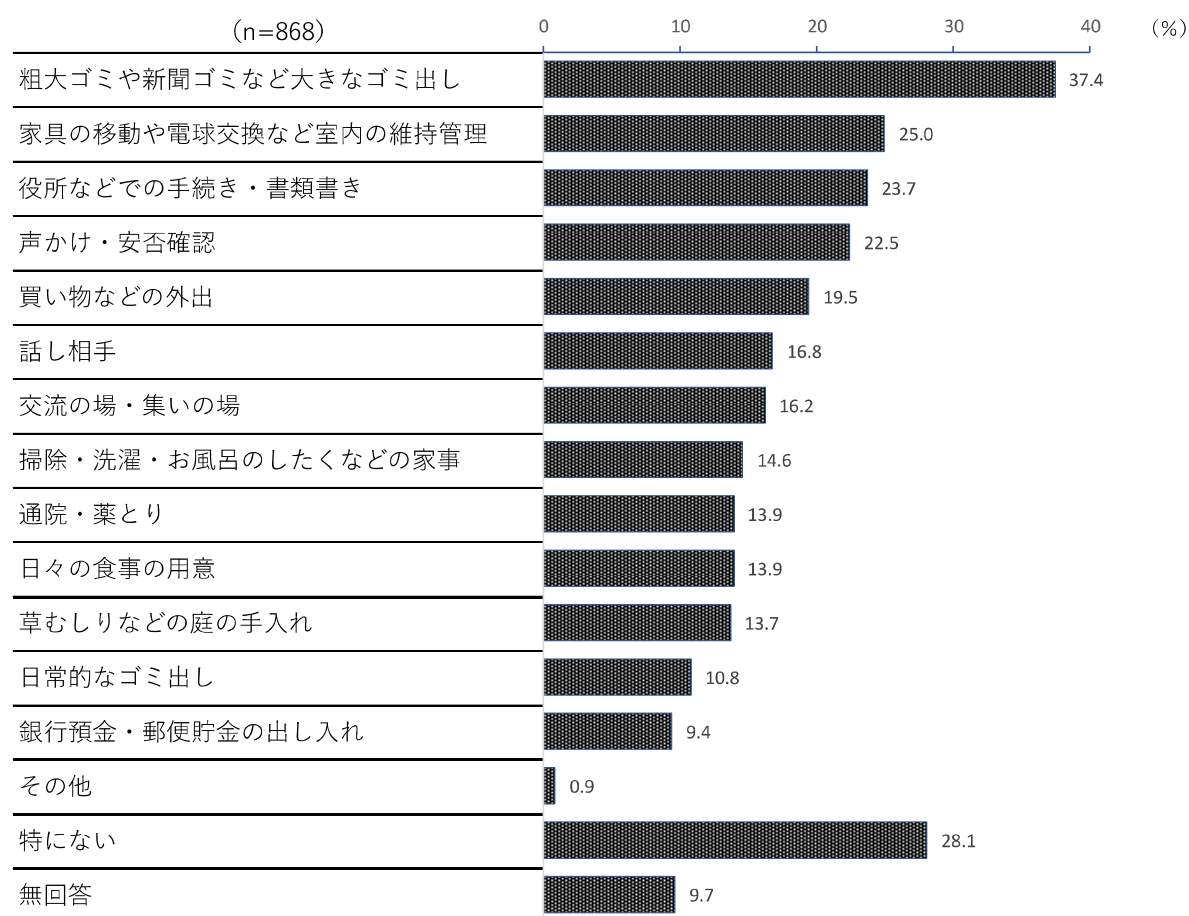


(2) 日常生活で困っていること、将来困るだろうと思うこと

問 18 下記であげる項目について、日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことを教えてください。(○はいくつでも)

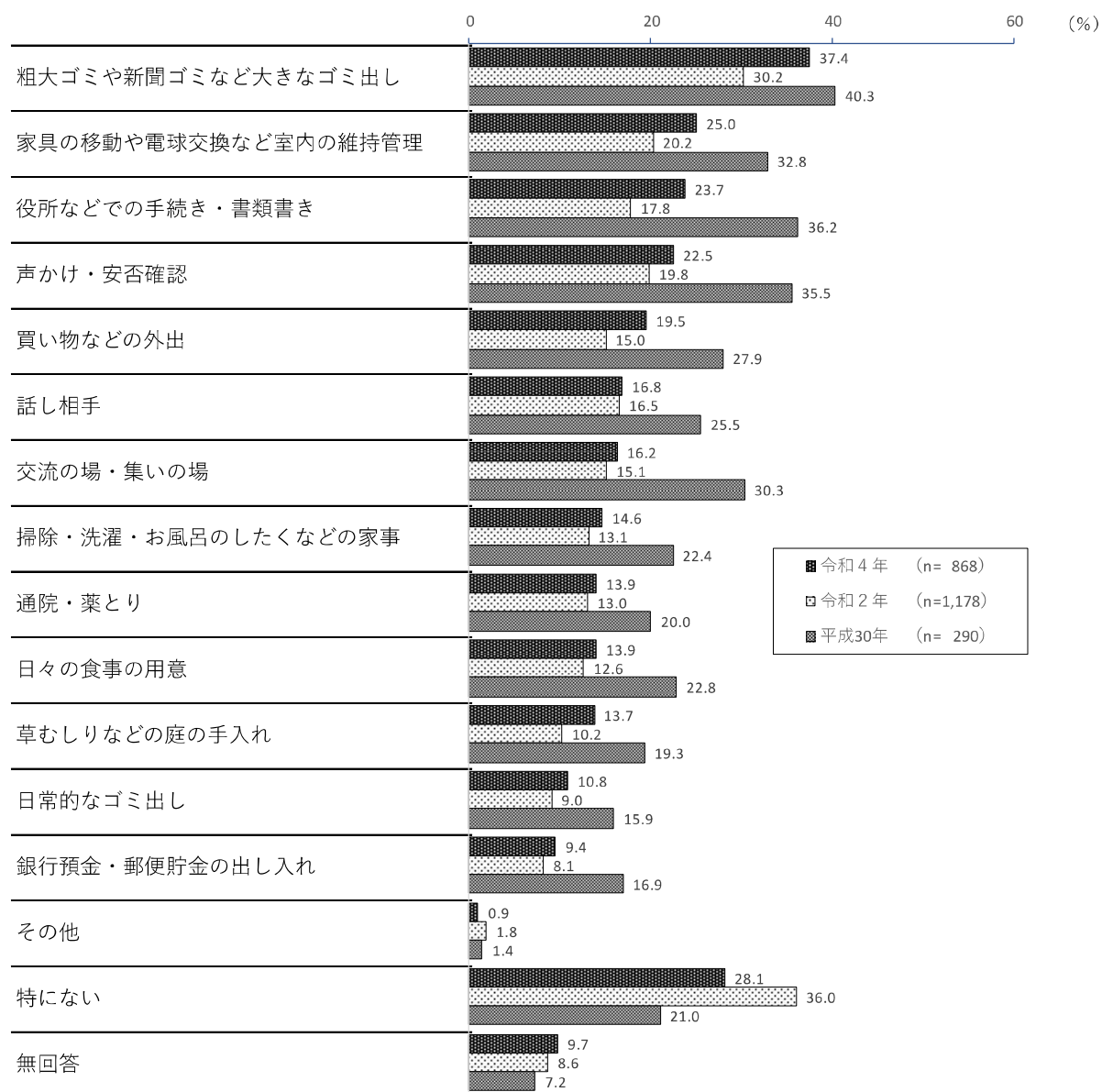
日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことを聞いたところ、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」(37.4%)が4割弱で最も多く、次いで「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」(25.0%)、「役所などでの手続き・書類書き」(23.7%)、「声かけ・安否確認」(22.5%)となっている。また、「特にない」(28.1%)は3割弱となっている。(図表 8-2-1)

図表 8-2-1 日常生活で困っていること、将来困るだろうと思うこと



過去の調査と比較すると、前回調査より「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」が 7.2 ポイント、「役所などでの手続き・書類書き」が 5.9 ポイント、「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」が 4.8 ポイント、「買い物などの外出」が 4.5 ポイント増加している。一方、「特にない」が 7.9 ポイント減少している。(図表 8-2-2)

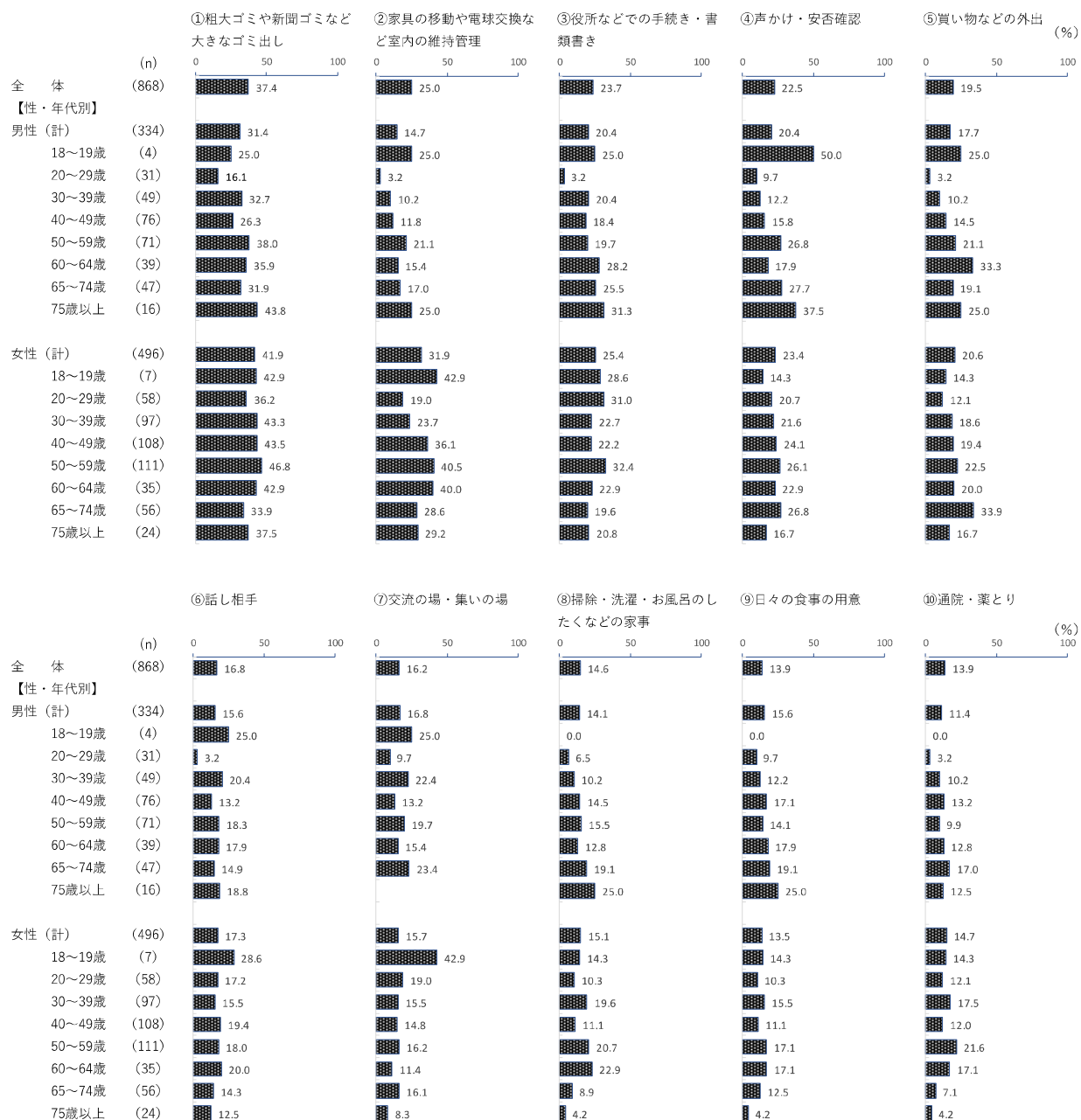
図表 8-2-2 日常生活で困っていること、将来困るだろうと思うことー過去の調査との比較



※平成 30 年調査では、60 歳以上に対する設問としていた。

性・年代別にみると、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」は男性 75 歳以上(43.8%)・女性 30～39 歳(43.3%)・女性 40～49 歳(43.5%)・女性 50～59 歳(46.8%)・女性 60～64 歳(42.9%)が4割超で多かった。「買い物などの外出」は男性 60～64 歳(33.3%)・女性 65～74 歳(33.9%)が3割強で多かった。「交流の場・集いの場」は女性 18～19 歳(42.9%)が4割強で多かった。(図表 8-2-3)

図表 8-2-3 日常生活で困っていること、将来困るだろうと思うこと一性・年代別（上位 10 項目）

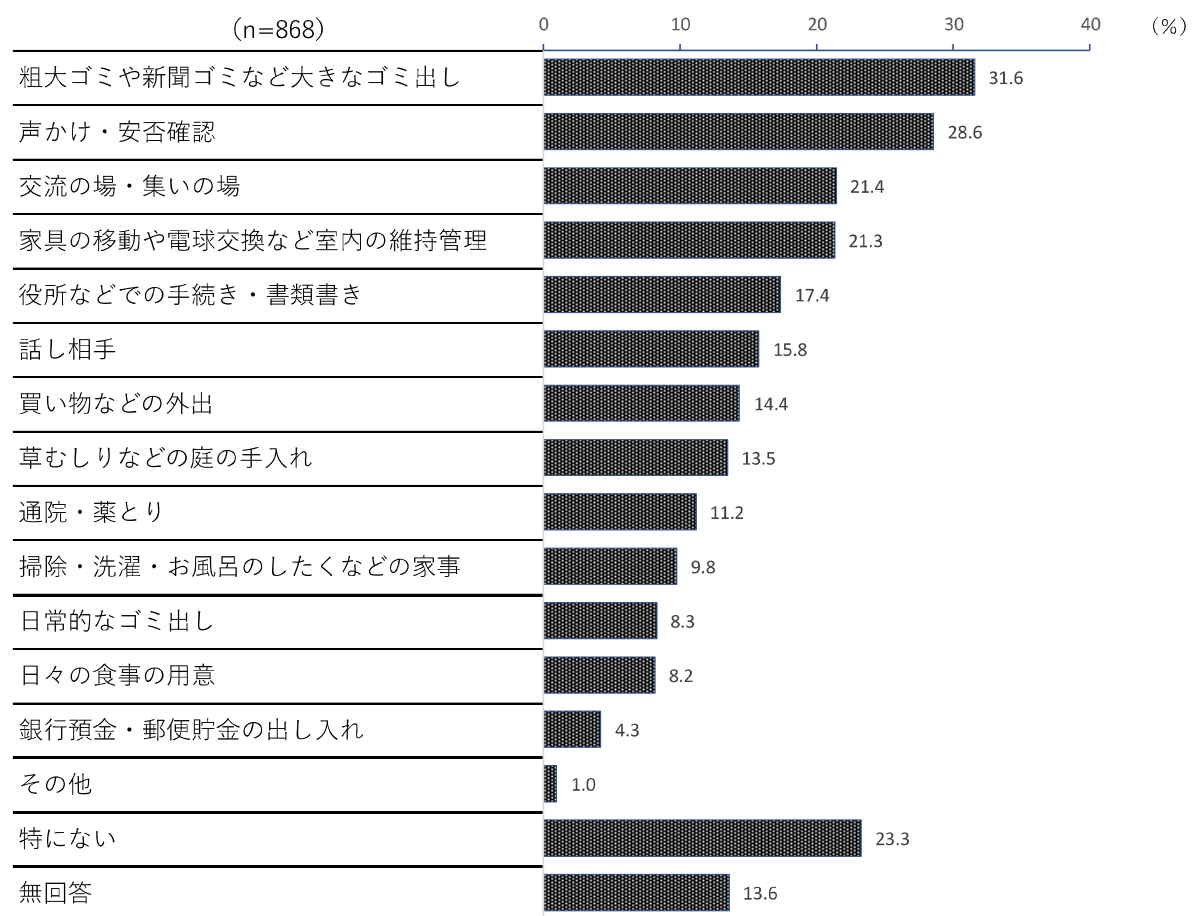


(3) 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと

問 19 問 18 で回答した項目について、地域の支え合いを希望する、または将来的には頼みたいと思うことについて教えてください。(○はいくつでも)

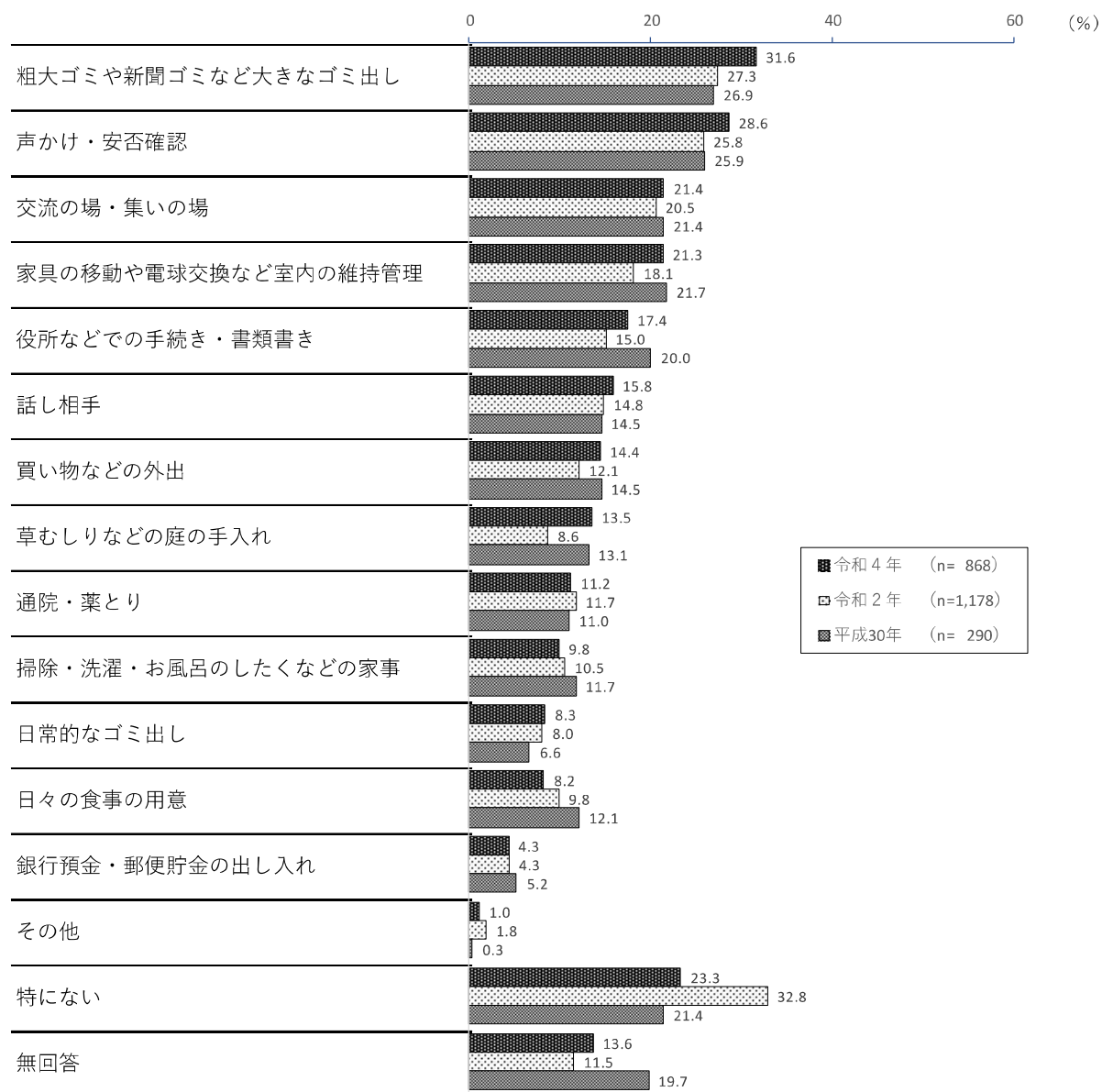
日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことで回答した項目について、地域の支え合いを希望する、または将来的には頼みたいと思うことを聞いたところ、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」(31.6%)が3割強と最も多く、次いで「声かけ・安否確認」(28.6%)、「交流の場・集いの場」(21.4%)、「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」(21.3%)となっている。また、「特にない」(23.3%)は2割を超えている。(図表 8-3-1)

図表 8-3-1 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと



過去の調査と比較すると、前回調査より「草むしりなどの庭の手入れ」が 4.9 ポイント、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」が 4.3 ポイント増加している。一方、「特にない」が 9.5 ポイント減少している。(図表 8-3-2)

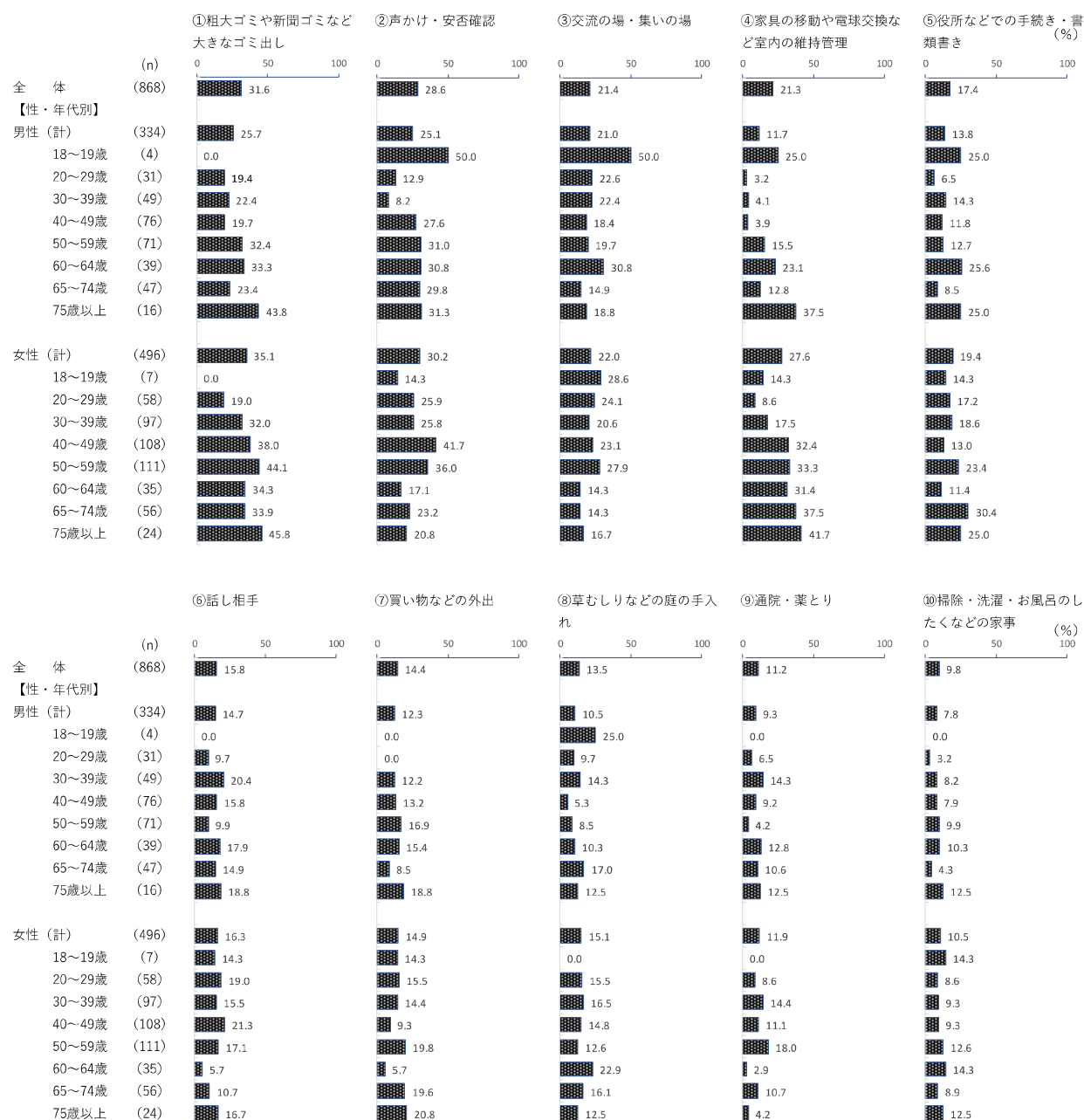
図表 8-3-2 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うことー過去の調査との比較



※平成 30 年調査では、60 歳以上に対する設問としていた。

性・年代別にみると、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」は男性 75 歳以上(43.8%)・女性 75 歳以上(45.8%)が4割半ばで多かった。「声かけ・安否確認」は女性 40～49 歳(41.7%)が4割超で多かった。「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」は男性 75 歳以上(37.5%)・女性 75 歳以上(41.7%)が約4割と多くなっており、おおむね年齢が高くなるほど多い傾向にある。(図表 8-3-3)

図表 8-3-3 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと一性・年代別（上位 10 項目）



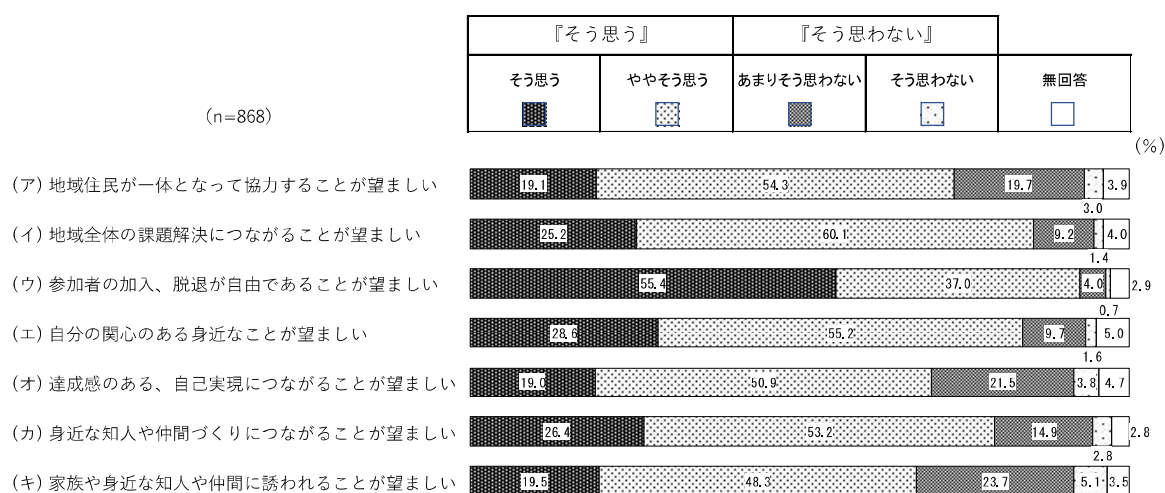
(4) 「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」についての考え

問 20 中原区では「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」を目指しています。この趣旨にそって、次にあげる(ア)から(キ)のそれぞれの項目について、あなたはどのように考えますか。各項目について1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つ)

「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」についての考えについて、7項目に分けて聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」の2つを合わせた『そう思う』は、(ウ) 参加者の加入、脱退が自由であることが望ましい(92.4%)が9割を超えて最も多く、次いで(イ) 地域全体の課題解決につながることを望ましい(85.3%)、(エ) 自分の関心のある身近なことが望ましい(83.8%)となっている。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の2つを合わせた『そう思わない』は、(キ) 家族や身近な知人や仲間に誘われることが望ましい(28.8%)、(オ) 達成感のある、自己実現につながることを望ましい(25.3%)、(ア) 地域住民が一体となって協力することが望ましい(22.7%)が2割超で多かった。(図表 8-4)

図表 8-4 「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」についての考え

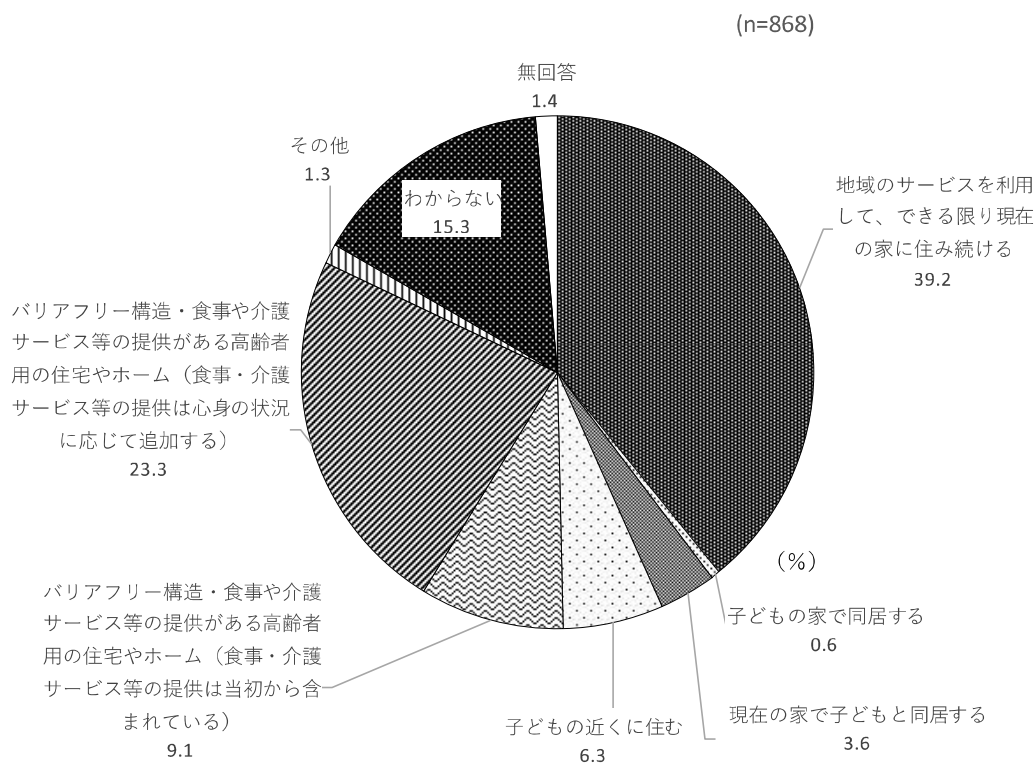


(5) 最期までどのように住みたいか

問 21 自分の健康への不安が生じたり、日常的な生活の見守り等が必要になった場合、最期までどのように住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

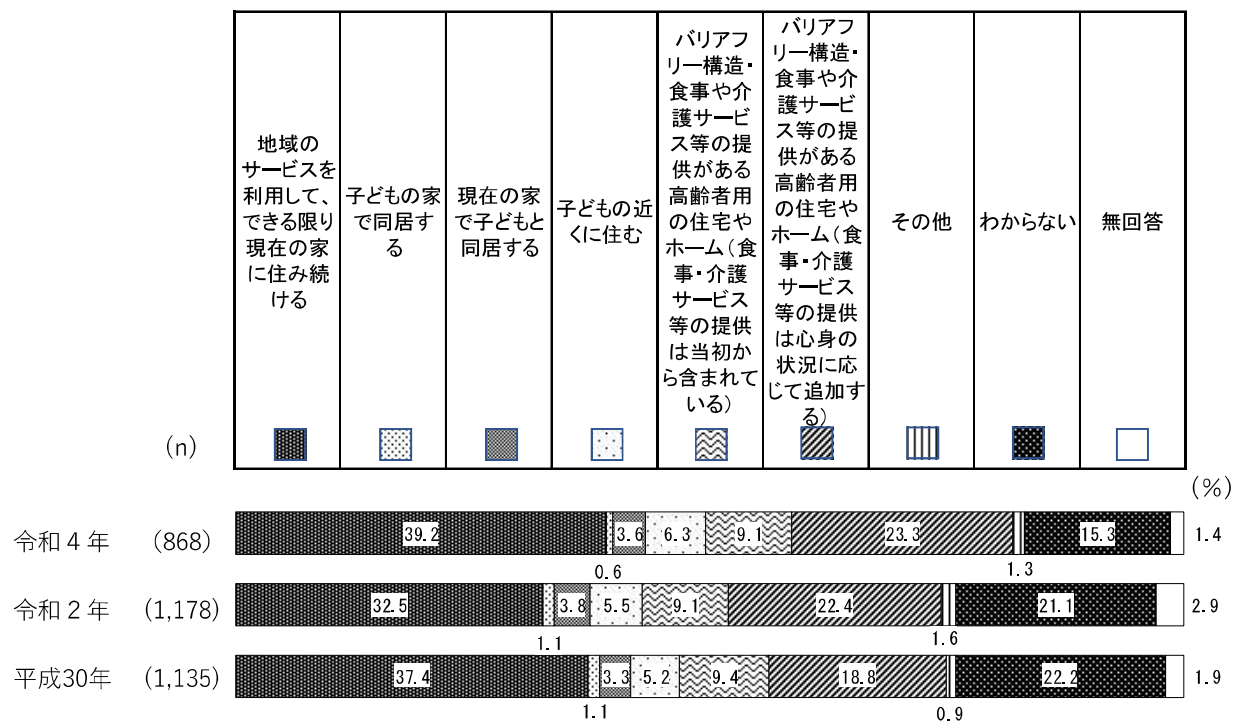
自分の健康への不安が生じたり、日常的な生活の見守り等が必要になった場合、最期までどのように住み続けたいと思うか聞いたところ、「地域のサービスを利用して、できる限り現在の家に住み続ける」(39.2%)が4割弱で最も多く、次いで「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム(食事・介護サービス等の提供は心身の状況に応じて追加する)」(23.3%)、「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム(食事・介護サービス等の提供は当初から含まれている)」(9.1%)となっている。(図表 8-5-1)

図表 8-5-1 「最期までどのように住み続けたいか



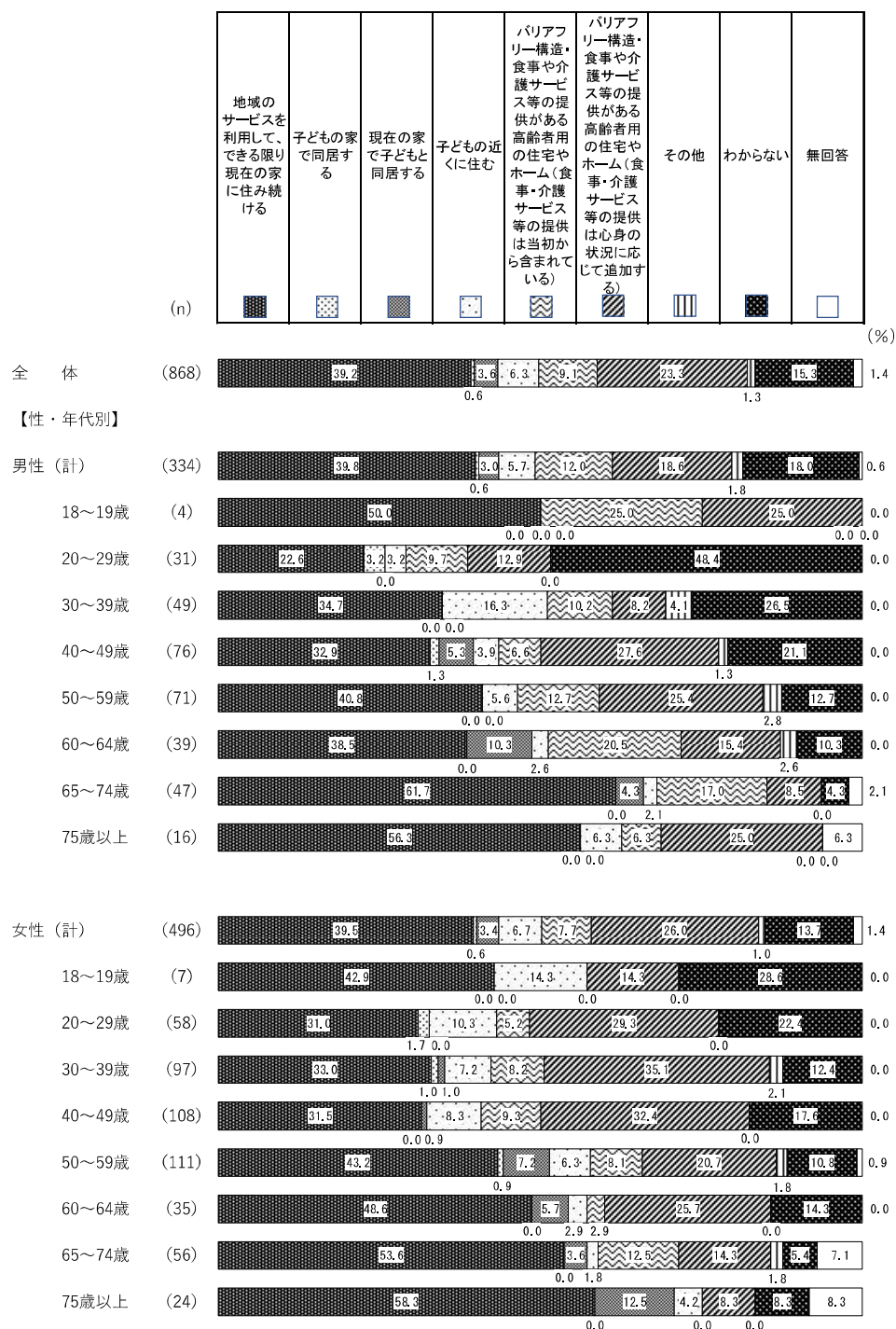
過去の調査と比較すると、前回調査より「地域のサービスを利用して、できる限り現在の家に住み続ける」が 6.7 ポイント増加している。一方、「わからない」が 5.8 ポイント減少している。(図表 8-5-2)

図表 8-5-2 「最期までどのように住みたいかー過去の調査との比較



性・年代別にみると、「地域のサービスを利用して、できる限り現在の家に住み続ける」は男性 65～74 歳(61.7%)で 6割強と多く、おおむね年代が上がるほど割合が高くなる傾向にある。「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム(食事・介護サービス等の提供は心身の状況に応じて追加する)」は女性 30～39 歳(35.1%)・女性 40～49 歳(32.4%)で3割以上で多かった。(図表 8-5-3)

図表 8-5-3 「最期までどのように住みたいか」性・年代別

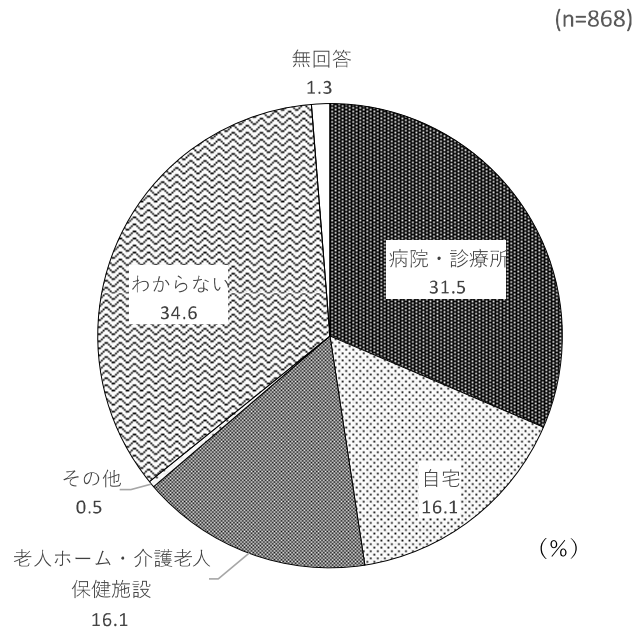


(6) 実際に最期を迎えると思う場所

問 22 実際に最期を迎えるのはどこだと思いますか。(○は1つだけ)

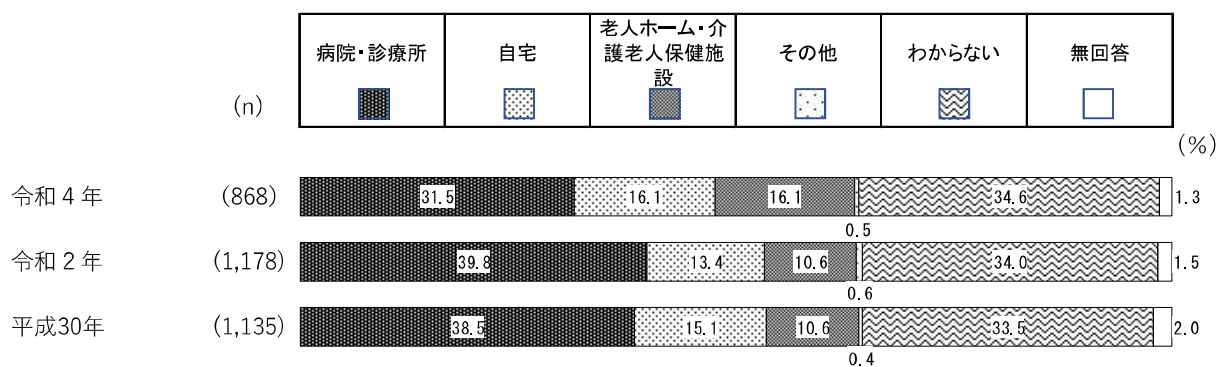
自実際に最期を迎えるのはどこだと思うか聞いたところ、「病院・診療所」(31.5%)が3割強で最も多く、次いで「自宅」(16.1%)、「老人ホーム・介護老人保健施設」(16.1%)となっている。(図表 8-6-1)

図表 8-6-1 実際に最期を迎えると思う場所



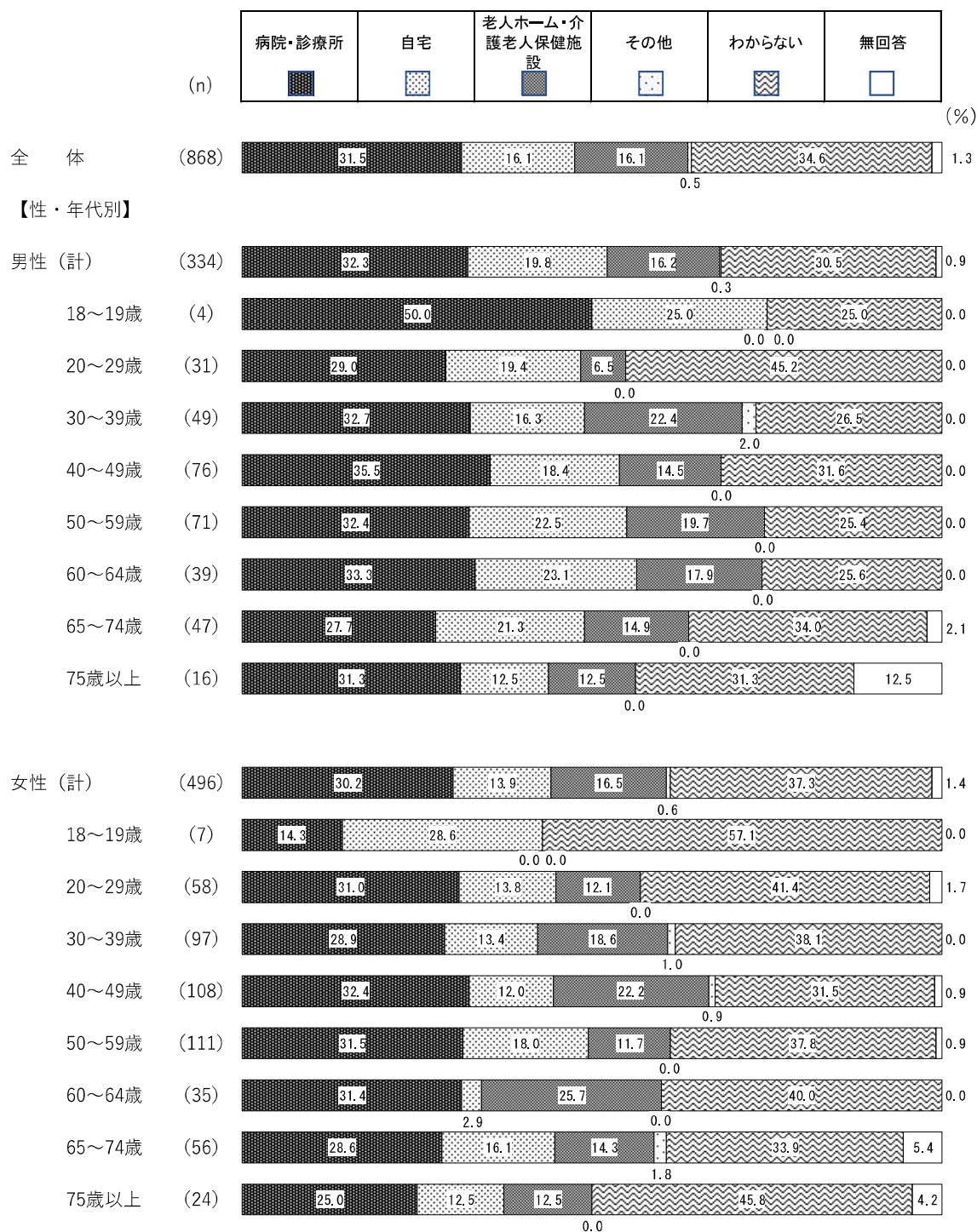
過去の調査と比較すると、前回調査より「病院・診療所」が8.3ポイント減少している。一方「老人ホーム・介護老人保健施設」が5.5ポイント増加している。(図表 8-6-2)

図表 8-6-2 実際に最期を迎えると思う場所ー過去の調査との比較



性・年代別にみると、「病院・診療所」は男女ともに 40～49 歳(男性 35.5%、女性 32.4%)が最も多い。「自宅」は男性 50～59 歳(22.5%)・男性 60～64 歳(23.1%)・男性 65～74 歳(21.3%)・女性 18～19 歳(28.6%)が 2 割以上で多かった。また、「老人ホーム・介護老人保健施設」は男性 30～39 歳(22.4%)・女性 40～49 歳(22.2%)・女性 60～64 歳(25.7%)が 2 割以上で多かった。(図表 8-6-3)

図表 8-6-3 実際に最期を迎えると思う場所一性・年代別



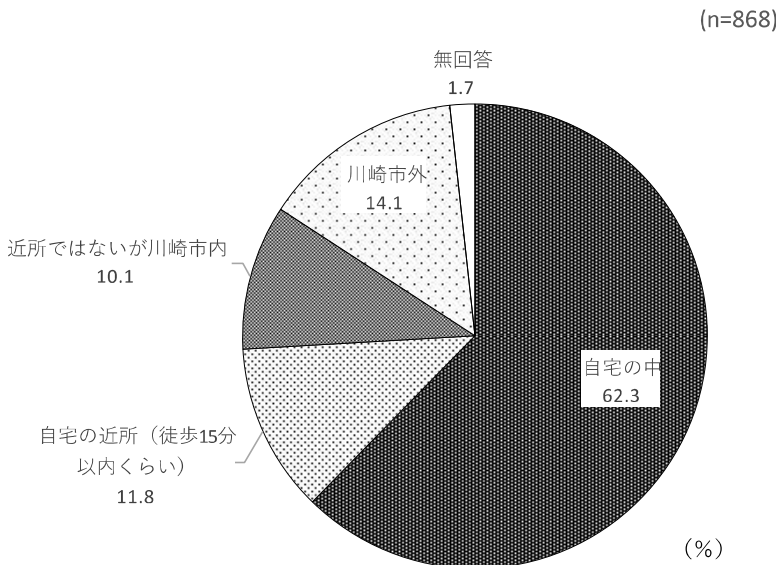
9 地域活動

(1) 自由な時間があるときに過ごす場所

問 23 自由な時間があるときは、どこで時間を過ごすことが多いですか。(○は1つだけ)

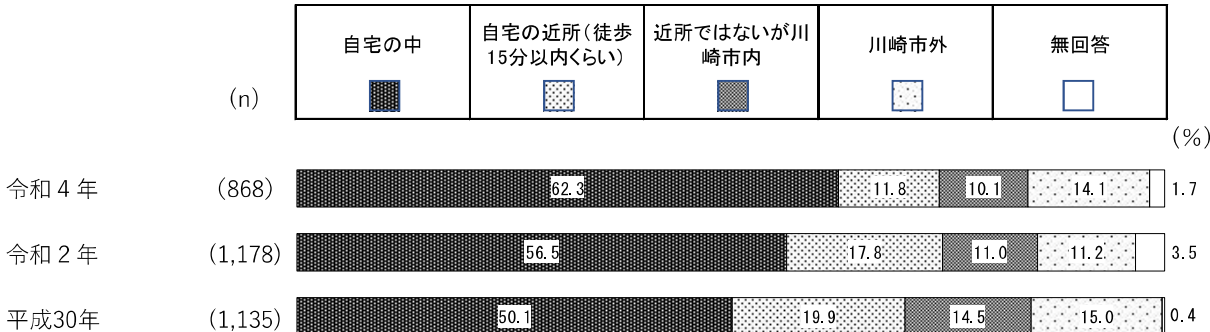
自由な時間があるときは、どこで時間を過ごすことが多いか聞いたところ、「自宅の中」(62.3%)が6割強で最も多く、次いで「川崎市外」(14.1%)、「自宅の近所(徒歩 15 分以内くらい)」(11.8%)、「近所ではないが川崎市内」(10.1%)となっている。(図表 9-1-1)

図表 9-1-1 自由な時間があるときに過ごす場所



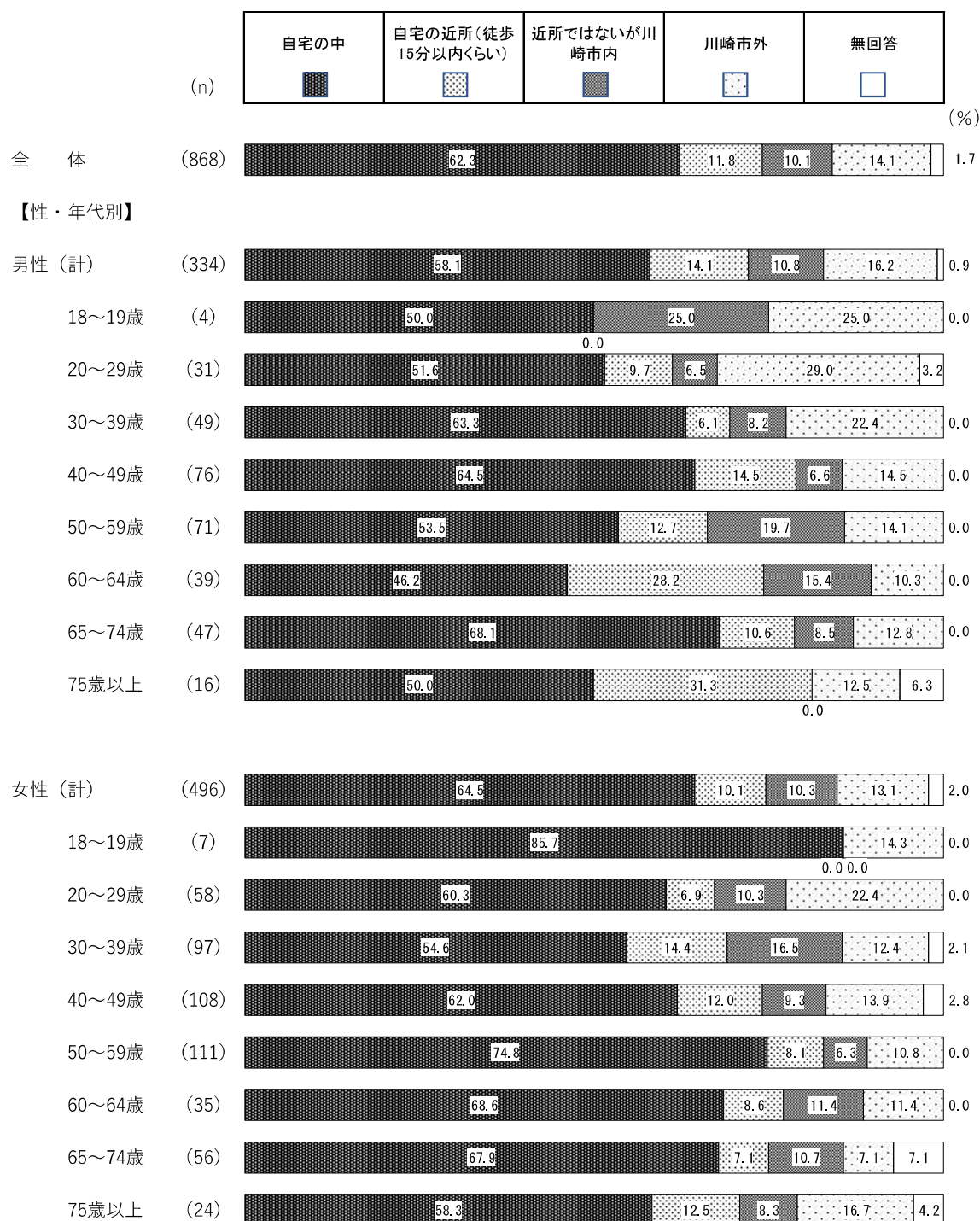
過去の調査と比較すると、前回調査より「自宅の中」が 5.8 ポイント増加している。一方「自宅の近所(徒歩 15 分以内くらい)」が 6.0 ポイント減少している。(図表 9-1-2)

図表 9-1-2 自由な時間があるときに過ごす場所ー過去の調査との比較



性・年代別にみると、「自宅の中」は女性 18～19 歳(85.7%)が8割半ば、「自宅の近所(徒歩 15 分以内くらい)」は男性 75 歳以上(31.3%)が3割強、「近所ではないが川崎市内」は男性 50～59 歳(19.7%)が2割弱、「川崎市外」は男性 20～29 歳(29.0%)がを3割弱で多かった。(図表 9-1-3)

図表 9-1-3 自由な時間があるときに過ごす場所－性・年代別

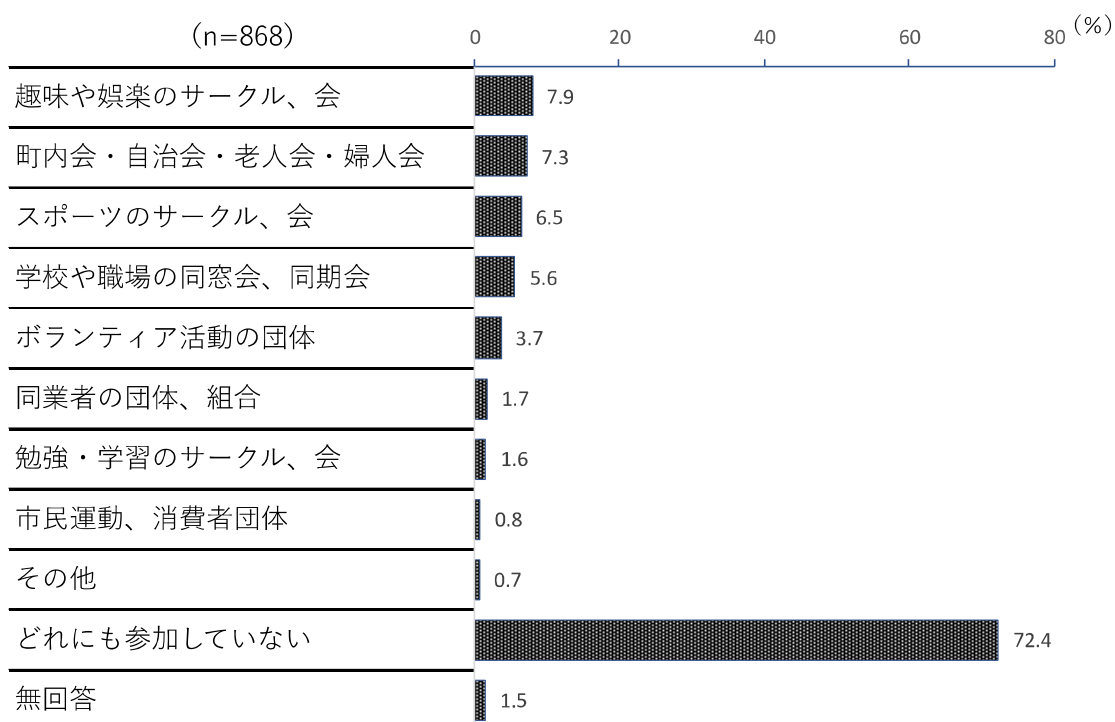


(2) 地域活動への参加状況

問 24 あなたは現在、次にあげるような地域活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

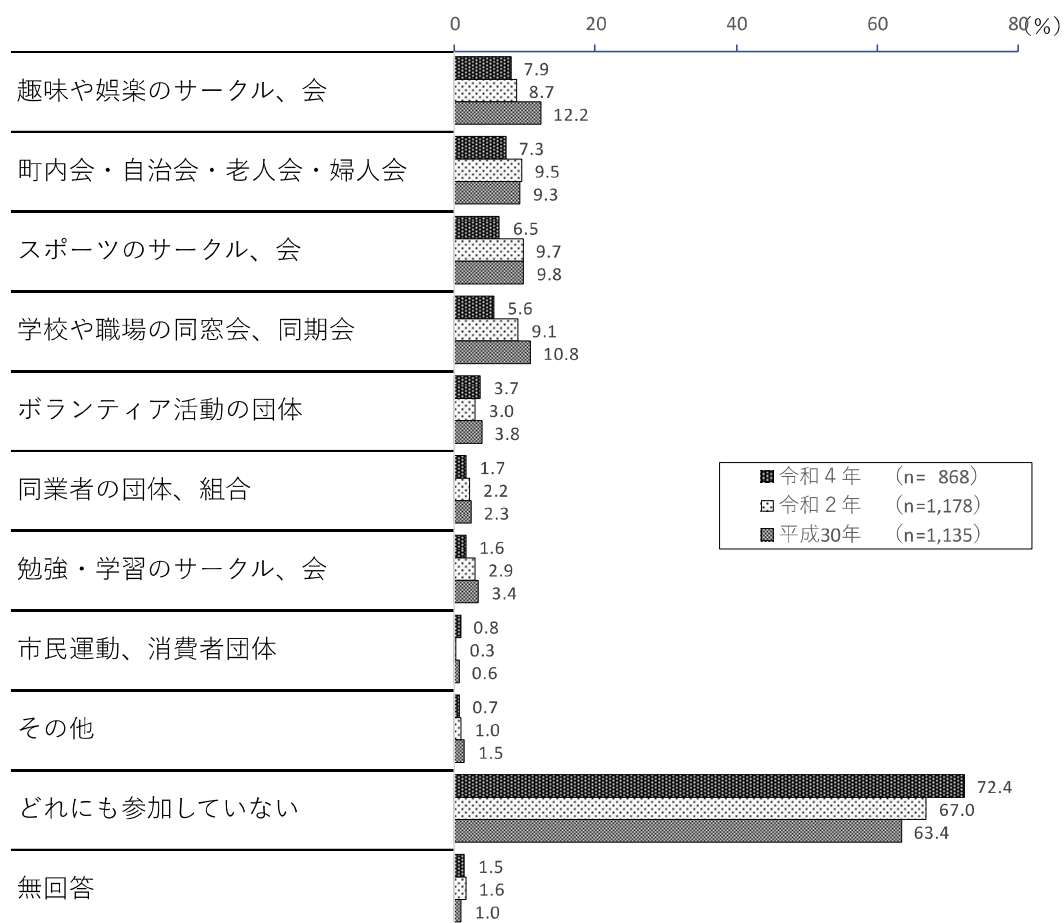
どのような地域活動に参加しているか聞いたところ、「趣味や娯楽のサークル、会」(7.9%)と「町町内会・自治会・老人会・婦人会」(7.3%)、「スポーツのサークル、会」(6.5%)が1割弱となっている。一方、「どれにも参加していない」(72.4%)は7割強となっている。(図表 9-2-1)

図表 9-2-1 地域活動への参加状況



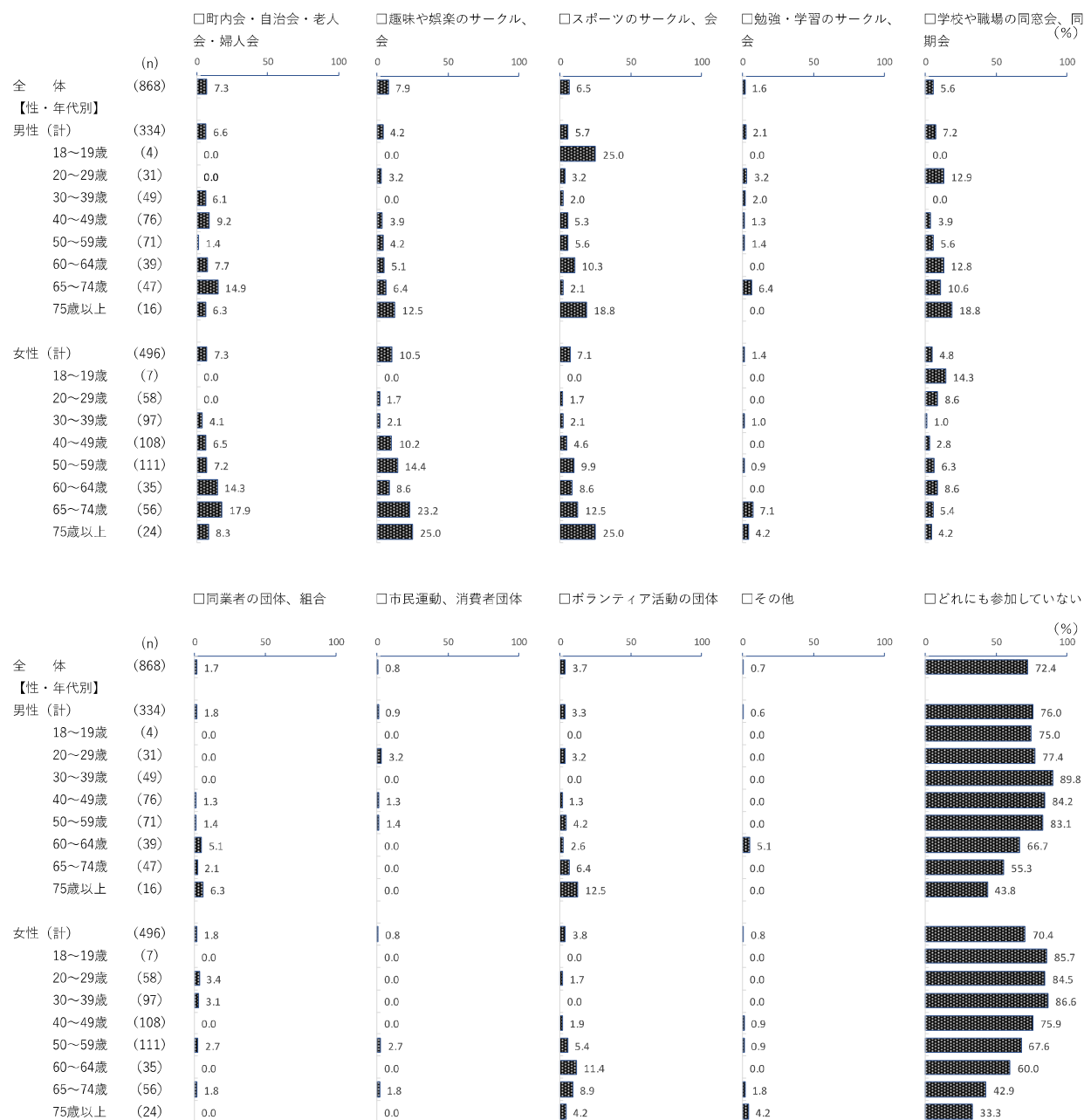
過去の調査と比較すると、前回調査より「どれにも参加していない」が 5.4 ポイント増加している。一方、「学校や職場の同窓会、同期会」が 3.5 ポイント、「スポーツのサークル、会」が 3.2 ポイント減少している。(図表 9-2-2)

図表 9-2-2 地域活動への参加状況－過去の調査との比較



性・年代別にみると、「町内会・自治会・老人会・婦人会」は女性 65～74 歳(17.9%)が2割弱で多かった。「趣味や娯楽のサークル、会」は女性 75 歳以上(25.0%)が2割半ばで多かった。「どれにも参加していない」は 40 歳以上ではおおむね年齢が上がるほど少なくなる傾向にある。(図表 9-2-3)

図表 9-2-3 地域活動への参加状況－性・年代別



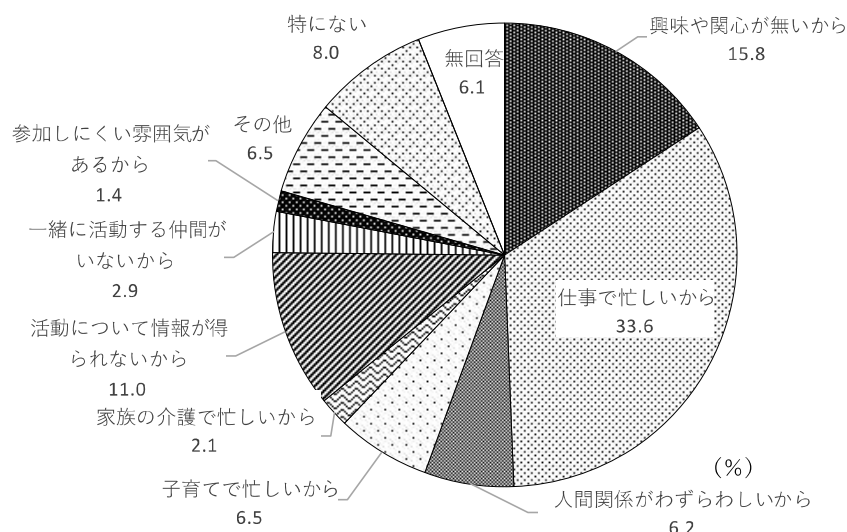
(3) 地域活動に参加していない理由

問 24－1 (問 24 で、「10.どれにも参加していない」と回答した方に)
どれにも参加していない理由をお答えください。(○は1つだけ)

地域活動に「どれにも参加していない」と回答した方(628 人)に、その理由を聞いたところ、「仕事で忙しいから」(33.6%)が3割強で最も多く、次いで「興味や関心が無いから」(15.8%)、「活動について情報が得られないから」(11.0%)となっている。(図表 9-3-1)

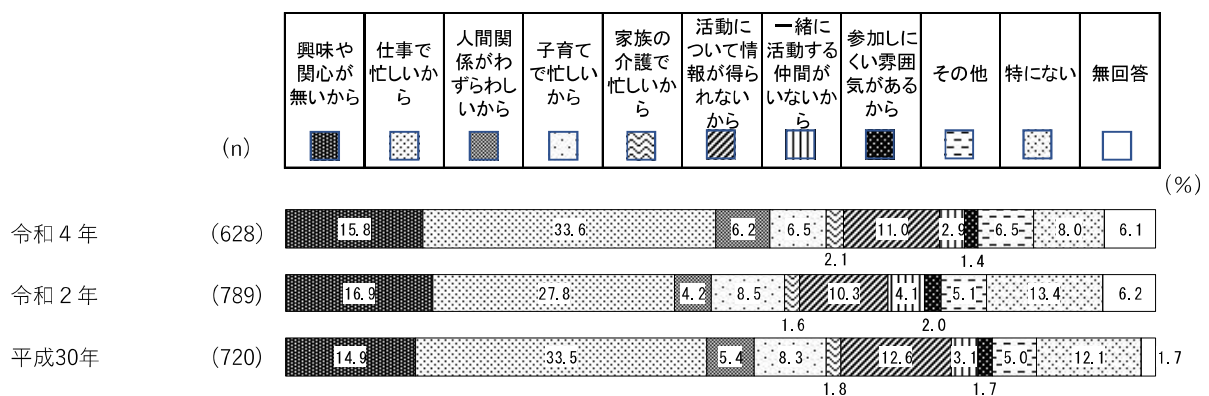
図表 9-3-1 地域活動に参加していない理由

(n=628)



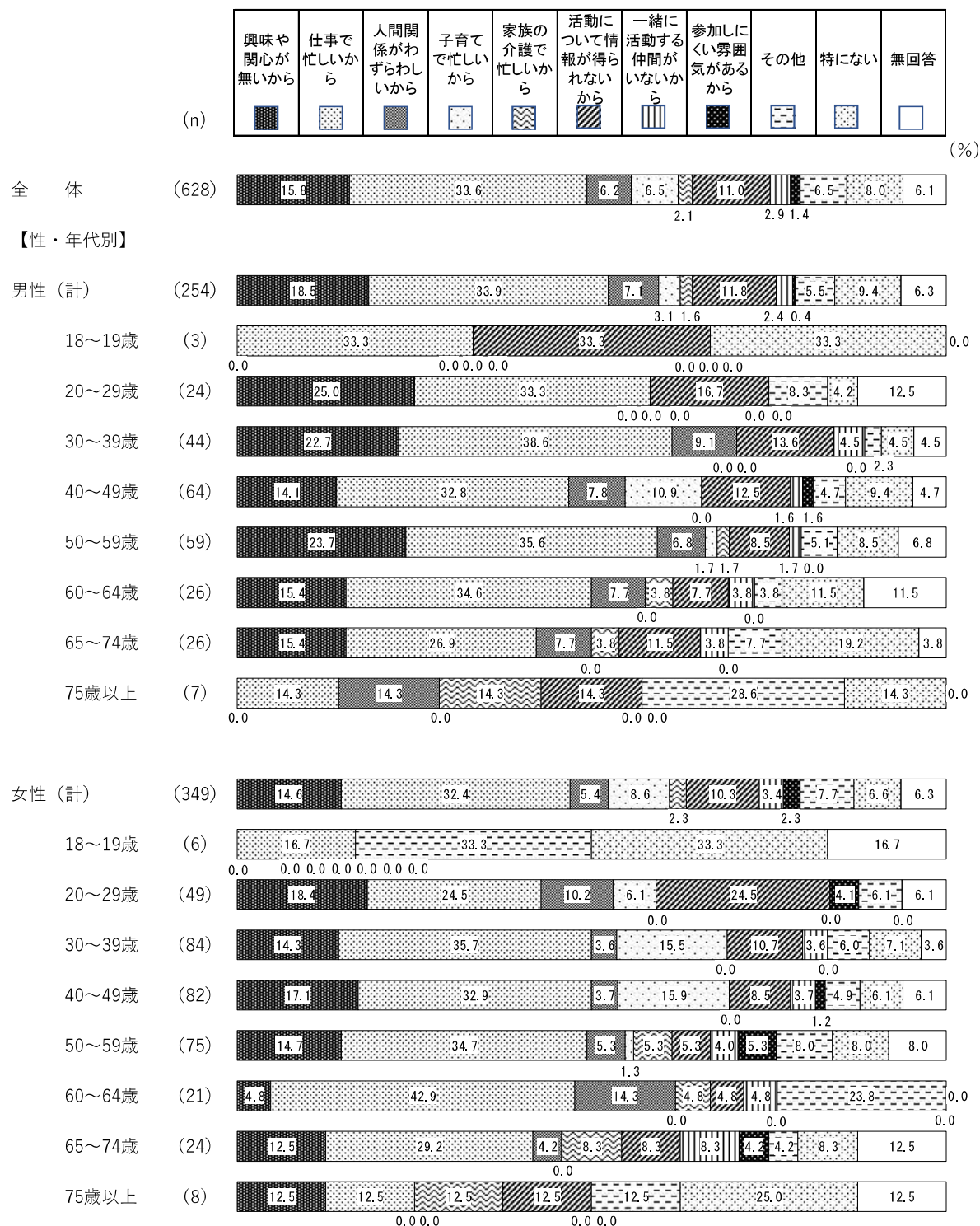
過去の調査と比較すると、前回調査より「仕事で忙しいから」が 5.8 ポイント増加している。一方、「特にな」が 5.4 ポイント減少している。(図表 9-3-2)

図表 9-3-2 地域活動に参加していない理由－過去の調査との比較



性・年代別にみると、「興味や関心が無いから」は男性 20～29 歳 (25.0%)・男性 30～39 歳 (22.7%)・男性 50～59 歳 (23.7%) が2割超で多かった。「仕事で忙しいから」は女性 60～64 歳 (42.9%) が4割強で多かった。(図表 9-3-3)

図表 9-3-3 地域活動に参加していない理由—性・年代別

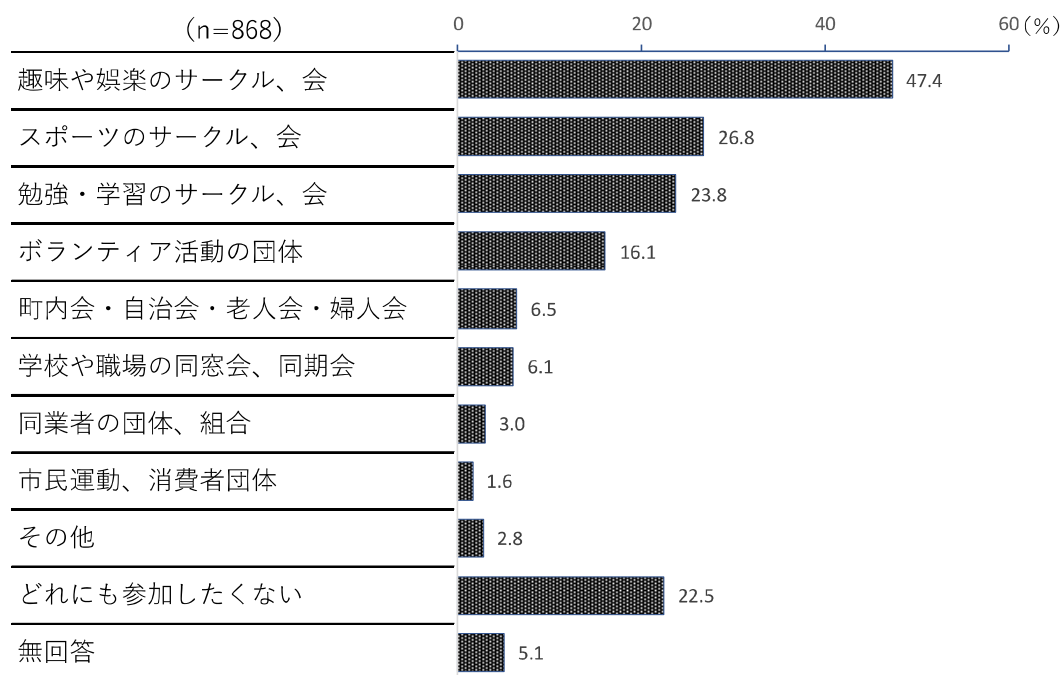


(4) 参加してみたい地域活動

問 25 あなたは、どのような地域活動であれば参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

どのような地域活動であれば参加したいかを聞いたところ、「趣味や娯楽のサークル、会」(47.4%)が5割弱で最も多く、次いで「スポーツのサークル、会」(26.8%)、「勉強・学習のサークル、会」(23.8%)となっている。(図表 9-4-1)

図表 9-4-1 参加してみたい地域活動



性・年代別にみると、「趣味や娯楽のサークル、会」は女性 50～59 歳(65.8%)・女性 60～64 歳(62.9%)が6割を超え多かった。「スポーツのサークル、会」は女性 18～19 歳(57.1%)が多かった。「ボランティア活動の団体」は女性 18～19 歳(42.9%)が多かった。

(図表 9-4-2)

図表 9-4-2 参加してみたい地域活動－性・年代別

